

大阪 PCB 廃棄物処理事業の操業状況について

1. 操業状況

(1) 搬入実績(平成 18 年 10 月～令和6年2月末)

平成 18 年 10 月から令和 6 年 2 月末までの PCB 廃棄物搬入実績は、(表-1)のとおりトランス類が 2,748 台、コンデンサ類が 89,413 台、廃 PCB 等が 3,068 本となっています。

令和 6 年 2 月末現在、近畿 2 府 4 県において登録されている PCB 廃棄物のうち、トランス類、コンデンサ類、廃 PCB 等について 100 %搬入されました。

表-1 年度別の搬入実績

種類	年度	滋賀県	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	大阪府	大阪市*2	合計
トランス類 (台)	平成 18	-	-	-	-	-	68	68	68
	19	-	-	-	-	-	332	332	332
	20	-	6	-	-	-	306	257	312
	21	2	8	74	-	-	290	116	380
	22	3	28	99	6	14	252	92	402
	23	1	22	79	48	8	101	77	259
	24	3	19	18	4	25	118	52	187
	25	3	20	28	31	1	186	81	269
	26	4	11	21	13	-	76	43	125
	27	-	5	27	4	14	38	27	88
	28	-	15	24	-	23	21	17	83
	29	-	-	28	2	1	45	38	76
	30	-	3	42	-	1	35	28	81
	令和元	-	1	19	-	-	20	19	40
	2	-	5	4	-	-	27	18	36
	3	-	2	1	-	2	3	2	8
	4	-	-	-	-	-	2	2	2
	令和6年2月末	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	16	145	464	108	95	1,920	1,269	2,748
	登録数	16	145	464	108	95	1,920	1,269	2,748
搬入実績	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
コンデンサ類 (台)	平成 18	-	-	-	-	-	2,096	2,096	2,096
	19	-	-	-	-	-	4,575	4,575	4,575
	20	52	87	245	9	-	5,015	2,649	5,408
	21	493	1,014	2,270	254	546	1,831	458	6,408
	22	598	525	2,462	156	563	2,228	566	6,532
	23	655	770	2,377	179	428	1,784	183	6,193
	24	588	1,271	2,546	269	513	2,527	293	7,714
	25	1,257	845	3,800	338	306	2,373	506	8,919
	26	457	736	2,834	355	145	1,709	322	6,236
	27	252	804	3,046	271	325	2,210	682	6,908
	28	271	1,878	2,828	159	210	1,445	356	6,791
	29	188	2,166	1,859	58	57	1,760	713	6,088
	30	116	531	978	56	73	1,996	443	3,750
	令和元	92	387	992	121	190	2,184	1,006	3,966
	2	166	350	1,085	105	116	3,057	1,876	4,879
	3	86	509	629	69	93	1,239	633	2,625
	4	3	19	44	3	5	63	37	137
	令和6年2月末	1	12	29	7	42	97	37	188
	合計	5,275	11,904	28,024	2,409	3,612	38,189	17,431	89,413
	登録数	5,275	11,904	28,024	2,409	3,612	38,189	17,431	89,413
搬入実績	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
廃 PCB 等 (本)	18	-	-	-	-	-	20	20	20
	19	-	-	-	-	-	69	69	69
	20	-	5	-	-	-	88	82	93
	21	1	5	44	1	-	30	28	81
	22	5	-	21	-	-	57	3	83
	23	2	10	51	-	6	111	46	180
	24	62	10	30	-	3	191	144	296
	25	41	10	11	2	4	161	81	229
	26	4	13	56	-	-	13	4	86
	27	8	4	23	-	2	41	17	78
	28	12	10	29	1	1	38	18	91
	29	5	35	60	-	5	45	22	150
	30	4	22	68	3	5	94	71	196
	令和元	8	39	195	2	6	117	78	367
	2	7	19	178	4	9	196	102	413
	3	5	14	152	3	2	91	49	267
	4	-	6	257	-	1	3	2	267
	令和6年2月末	1	1	79	-	3	18	5	102
	合計	165	203	1,254	16	47	1,383	841	3,068
	登録数	165	203	1,254	16	47	1,383	841	3,068
搬入実績	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

エリア間移動により豊田 PCB 処理事業所で処理した PP コンデンサを含む。

*1 ドラム缶等本数 *2 大阪府に含まれる内数

(登録台数は、令和 6 年 2 月末現在)

(2) 中間処理実績等(平成 18 年 10 月～令和6年2月末)

平成 18 年 10 月から令和 6 年 2 月末までの PCB 廃棄物処理実績は、(表-2)のとおりトランス類が 2,748 台、コンデンサ類が 84,426 台、廃 PCB 等が 3,068 本となっています。なお、この他、エリア間移動による処理により豊田 PCB 処理事業所においてコンデンサ類 4,987 台の処理を終えています。

トランス類については、令和 4 年 12 月に 2 台のトランスを処理して以降、新たな登録は無く、今年度 2 月末までの処理台数は 0 台です。

コンデンサ類については、事業終了準備期間となってからも登録が続いており、順次処理を進めています。令和 4 年度 156 台を処理、今年度 2 月末までに 207 台処理しました。

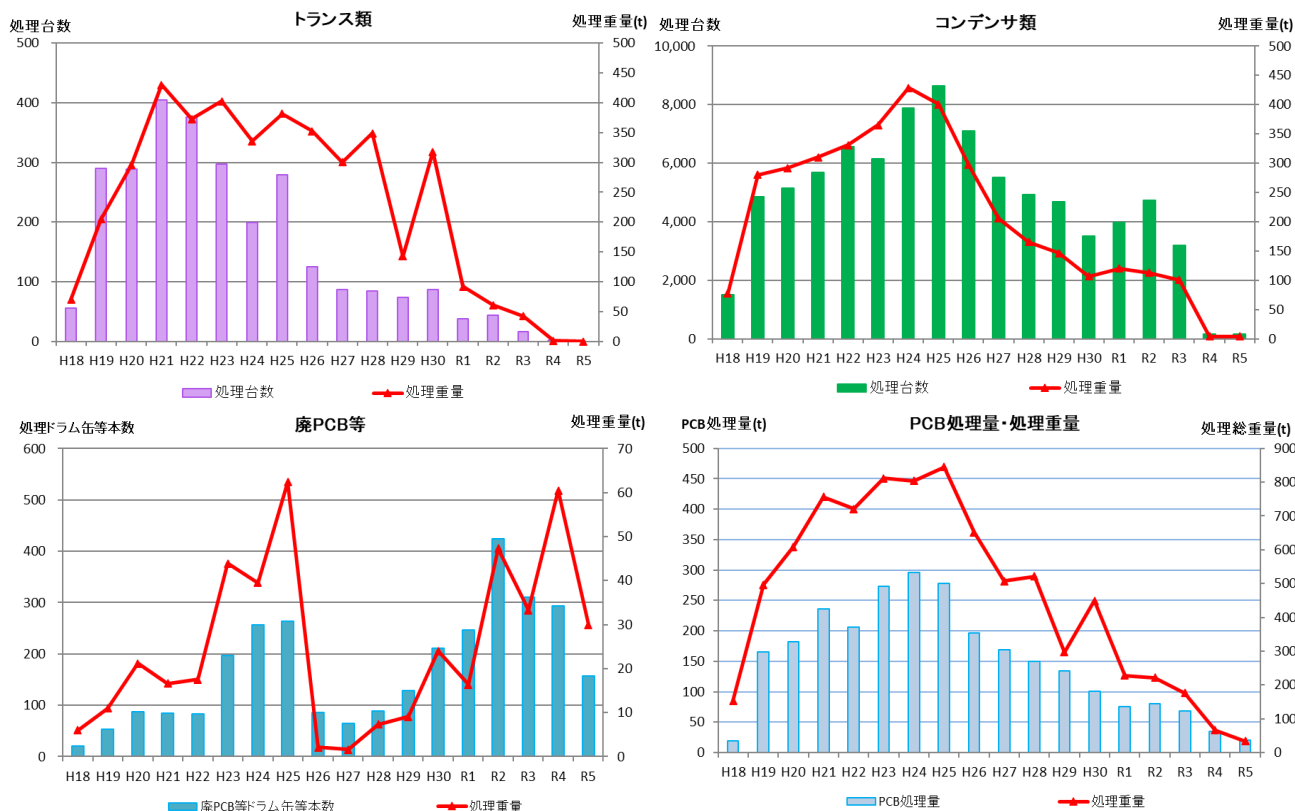
廃 PCB 等については、少量保管事業者の分析検体残液等の登録が続いたことと、また令和元年度から開始した処理に時間を要する多量保管事業者の廃 PCB 油の処理を行いました。

なお、多量保管事業者の廃 PCB 油は、令和 5 年 10 月に全ての処理を完了しました。大阪事業所での処理は、今年度末までと決まっており、登録、契約、搬入の手続きを全て終えて、令和 6 年 2 月末までに全量処理完了しました。

表-2 年度別の中間処理完了実績等

種別	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R6	計	
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2024		
受託処理 (中間処理 D票)	トランス類	処理数(台)	56	290	289	404	376	297	199	279	125	87	84	74	87	38	44	17	2	0	2,748
		処理重量(t)	70.4	205.0	295.9	429.9	372.6	402.6	335.7	381.7	352.4	300.3	348.9	142.1	317.9	91.8	61.2	42.4	1.3	0.0	4,152
	コンデンサ類	処理数(台)	1,513	4,862	5,136	5,692	6,557	6,152	7,873	8,636	7,091	5,507	4,931	4,682	3,513	3,981	4,737	3,200	156	207	84,426
		処理重量(t)	77.0	280.4	291.5	309.8	330.9	364.9	428.5	400.8	297.5	205.7	165.0	146.2	106.7	120.0	112.6	100.8	4.2	5.0	3,748
	廃PCB等	処理台数(本)	20	53	87	85	83	197	256	264	86	64	89	129	211	247	425	311	294	167	3,068
		処理重量(t)	6.0	11.0	21.2	16.6	17.5	43.9	39.5	62.4	2.1	1.6	7.3	9.1	24.0	16.4	47.3	33.3	60.5	30.0	450
	処理重量計(t)		153.4	496.4	608.6	756.3	721.0	811.4	803.7	844.9	652.0	507.6	521.2	297.4	448.6	228.2	221.1	176.5	66.0	35.0	8,349.3
	PCB処理量(t)		19.7	165.7	181.9	236.5	206.0	272.8	295.8	278.0	195.9	168.9	149.8	133.7	100.3	75.7	79.8	67.9	35.2	24.2	2,687.8

図-1 中間処理実績等



(3) 多量保管事業者の廃PCB油

多量保管事業者では、PCB汚染物 273t を有機溶媒（IPA）で抽出することによって J E S C O の受入条件可能な PCB 油がドラム缶で 511 本あり、平成 31 年 4 月から受入を開始し、順次処理を進めてきました。

その後、42.5t の PCB 固形物や高粘度液状物を、2 種類の炭化水素系溶剤（KP-8、HC-370）、またはこの 2 つの混合液にて粘度調整したことで、PCB 油 170 本が新たに発生し、処理対象ドラム缶は合計 681 本となりました。

最後まで残った廃油は、他の PCB 油と比較して粘度が高く、ポンプでの抜油は難しく、また、ドラム缶の底部にはスラッジが溜まっており汜過も困難な性状であったため、VTR（真空加熱分離）処理を行い、令和 5 年 10 月には全て処理が完了しました。

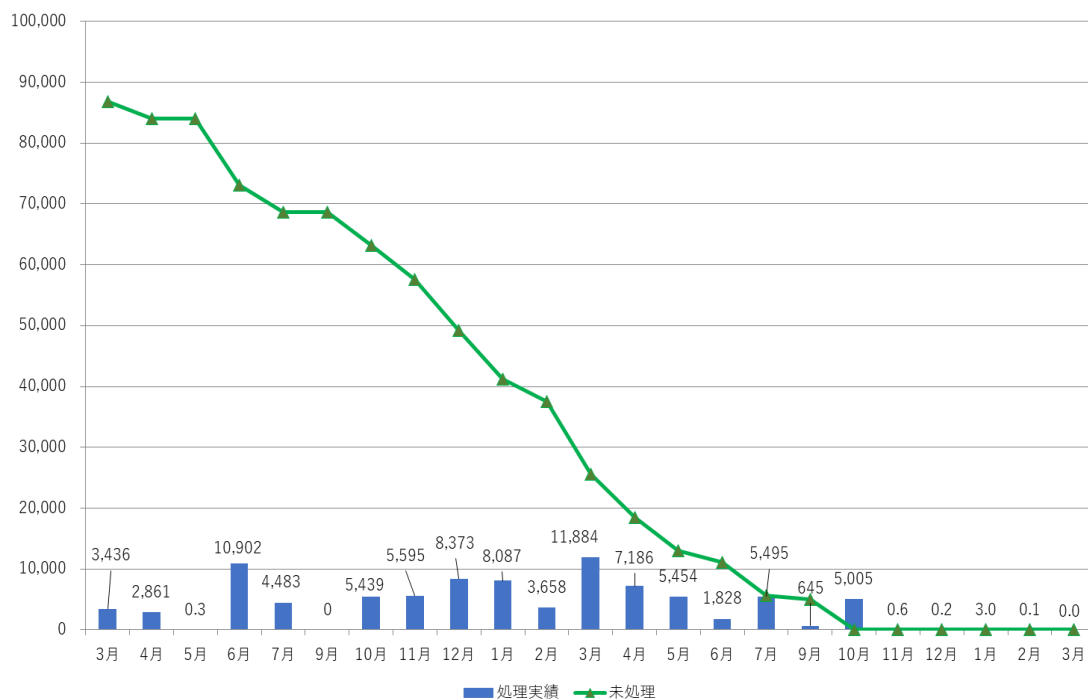
表-3 多量保管事業者の廃 PCB 油の処理状況

令和6年2月 現在

事業者名	油の種類及び性状	対象物の由来	全ドラム缶数 (本)	中間処理完了ドラム缶数 / 搬入ドラム缶数 (本)	処理期間
K社	① IPA抽出油 (高濃度硫黄分有り)	ろ過ケーキ	511	511/511	・ IPA抽出油 (H31. 4~R5. 10)
	② 粘度調整油 ・ KP-8 粘度調整油 ・ HC-370 粘度調整油 ・ KP-8+HC-370 粘度調整油 (高粘度及びスラッジ有り)	PCB固形物、 廃白土、 TC残渣物など	170	170/170	・ KP-8調整油 (R4. 6~R5. 1) ・ HC-370調整油 (R4. 10~R5. 2) ・ KP-8+HC-370調整油 (R4. 6~R5. 4)
	合計 (①+②)		681	681/681	

多量保管事業者の廃PCB油を含めた令和6年2月末の処理実績重量と残重量は（図－2）のとおりです。

図－2 廃PCB油の処理実績重量と残重量 （単位：kg）



(4) エリア間移動による処理

令和4年5月のPCB廃棄物処理基本計画（見直し）改定により、北九州事業エリアにおいて北九州PCB処理事業所での処理事業終了後に発見されたトランス、コンデンサ等の一部を令和4年10月から大阪PCB処理事業所で処理を行いました。令和4年度においては、九州・沖縄8県分の処理を行い、計画数の処理を終えました。また、令和5年8月からは九州・沖縄8県分に加えて中国・四国9県分の処理も行い、令和5年12月22日までに全ての搬入を終え、2月末までに全量処理終了しました。処理実績及び搬入実績は、(表-4-1、2)のとおりです。

表-4-1 北九州事業エリア間移動処理の実績(令和6年2月末時点)

区分	分類	令和4年度	令和5年度	合計	
トランス類(台)	北九州エリアから	計画	1	0	1
		実績	搬入	1	-
	処理		1	-	1
コンデンサ類(台)	北九州エリアから	計画	231	107	338
		実績	搬入	231	107
	処理		231	107	338
廃PCB等(本)	北九州エリアから	計画	37	14	51
		実績	搬入	37	14
	処理		37	14	51

表-4-2 中国・四国、九州・沖縄からの処理実績(令和6年2月末時点)

種類	県名	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
トランス類(台)	処理実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登録数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	進捗率	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コンデンサ類(台)	処理実績	1	4	36	13	1	1	1	7	0
	登録数	1	4	36	13	1	1	1	7	0
	進捗率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-
廃PCB等(本)*1	処理実績	0	2	3	3	0	0	1	1	0
	登録数	0	2	3	3	0	0	1	1	0
	進捗率	-	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	100.0%	100.0%	-
種類	県名	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
トランス類(台)	処理実績	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	登録数	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	進捗率	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
コンデンサ類(台)	処理実績	113	34	21	29	19	17	37	4	338
	登録数	113	34	21	29	19	17	37	4	338
	進捗率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
廃PCB等(本)*1	処理実績	14	4	6	8	2	2	4	1	51
	登録数	14	4	6	8	2	2	4	1	51
	進捗率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

*1 ドラム缶等の本数

(5) 払出実績(平成 18 年 10 月 ~ 令和6年1月末)

1) 有価物・廃棄物

有価物・廃棄物の払出実績は(表-5)のとおりであり、これらを(表-6)に示す方法で再資源化しています。

表-5 年度別の払出実績

単位(t)

区分	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R6 1月末
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2024
有価物払出実績		100	593	663	849	724	810	761	666	485	433	429	397	441	272	267	253	203	129
内訳	劣化溶媒 *1	53	372	375	479	386	433	425	318	118	115	131	134	175	133	190	192	172	106
	鉄	39	179	230	293	261	294	262	262	293	256	236	214	223	121	68	54	19	15
	銅	4	17	30	40	37	42	36	45	38	32	34	22	27	11	2	2	0	0
	その他*2	4	25	28	37	40	41	38	41	36	30	28	27	16	7	7	5	12	8
廃棄物払出実績		100	638	903	1,046	908	1,252	1,258	1,160	867	828	713	636	493	455	520	493	470	470
内訳	塩酸	79	419	550	671	597	713	748	724	522	502	442	408	301	283	334	321	359	218
	ビフェニル	15	133	147	190	157	208	197	221	164	143	112	106	81	68	54	46	33	18
	トリクロロベンゼン	0	30	50	66	60	61	56	59	44	55	43	33	25	0	7	4	0	0
	碍子・ガラスくず	3	16	18	20	17	21	22	19	16	12	11	9	5	8	6	6	1	1
	活性炭汚泥	0	0	30	20	10	20	22	27	32	26	31	19	27	30	30	18	16	11
	その他*3	3	40	108	79	67	229	213	110	89	90	74	61	54	66	89	98	61	222

*1 劣化溶媒：脱塩素化分解の反応溶媒として使用した鉱油

*2 その他：アルミ（H30.6より廃棄物）、ステンレス等

*3 その他：木酢液、廃アルカリ水、分析廃水、炭化物、廃プラスチック等

2) 廃棄物等の再資源化方法

表-6 払出している廃棄物等の再資源化方法

廃棄物等	再資源化方法
劣化溶媒	燃料
塩酸	飛灰、スラッジ、汚染土壌の金属抽出剤として利用
	汚泥処理（中和）剤として利用
ビフェニル	他の廃油等と混合の後、セメントメーカーで燃料として利用
	他の廃油等と混合の後、助燃油として利用
トリクロロベンゼン	高炉用ペレット製造又はセメント原料製造工程の原燃料
碍子・ガラスくず	再生砕石等として利用
活性炭等	焼却や溶融処理後、路盤材として利用

(6) 運転廃棄物

令和6年2月末までの運転廃棄物の処理実績は(表-7)のとおりです。

表-7 運転廃棄物処理実績

年度	種別	無害化認定施設											自所処理							他事業所 (5000ppm超)			
		廃活性炭	保護具・シート類	ウエス・キムタオル類	コンクリークズ等	木くず等	タール・木酢	廃アルカリ	廃油	廃油(廃TCB)	金属くず等	ガラスくず	合計	廃アルカリ	廃活性炭	タール・木酢・廃油	配管材	コンクリークズ等	合計	VTRバッチ数実績		東京	北九州
																				運転廃棄物	全バッチ		
H24年度 (2012)	本数	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	20	0	12	51	101	0	164	42	556	0	0
	重量(t)							4.0				4.0		1.8	10.2	15.2		27.2					
	PCB処理量(kg)							2				2		360	71	<1		432					
H25年度 (2013)	本数	0	0	0	0	0	0	169	0	0	0	0	169	0	34	34	128	0	196	45	564	0	0
	重量(t)							33.8				33.8		5.1	6.8	19.2		31.1					
	PCB処理量(kg)							33				33		1,020	48	<1		1,069					
H26年度 (2014)	本数	1,007	0	0	0	0	0	199	129	0	0	0	1,335	25	4	58	137	0	224	53	462	0	0
	重量(t)	100.7						39.8	25.8			166.3	5.0	0.6	11.6	20.6		37.8					
	PCB処理量(kg)	5						18	27			50	35	120	81	1		237					
H27年度 (2015)	本数	288	624	0	0	0	51	177	48	0	0	0	1,188	91	49	60	116	0	316	85	456	64	32
	重量(t)	28.8	35.6				10.2	35.4	9.6				119.6	18.2	7.4	12.0	17.4		55.0			9.6	1.8
	PCB処理量(kg)	3	6				7	25	10				52	127	1,470	84	<1		1,682			1,920	28
H28年度 (2016)	本数	192	720	0	0	0	0	192	48	0	0	0	1,152	84	76	136	61	0	357	92	445	0	276
	重量(t)	19.2	41.0				0.0	38.4	9.6				108.2	16.8	11.5	27.2	9.3		64.8			0.0	16.0
	PCB処理量(kg)	2	8				0	27	10	0			47	118	2,300	190	<1		2,608			0	256
H29年度 (2017)	本数	240	660	0	56	0	82	205	32	28	0	0	1,303	64	46	107	100	0	317	85	426	208	240
	重量(t)	24.0	37.6		8.4		16.4	41.0	6.4	5.7			139.6	12.8	6.9	21.4	15.0		56.1			31.2	13.2
	PCB処理量(kg)	3	7		<1		12	29	7	<1			57	90	1,380	150	<1		1,620			6,240	211
H30年度 (2018)	本数	140	422	352	0	0	17	352	44	112	0	0	1,439	82	88	116	79	0	365	100	448	310	208
	重量(t)	14.0	24.1	19.4			3.4	70.4	8.8	23.0			163.0	16.4	13.2	23.2	11.9		64.7			46.5	11.4
	PCB処理量(kg)	2	4	26			2	50	9	<1			94	115	2,640	162	<1		2,918			9,300	183
R1年度 (2019)	本数	220	420	30	0	0	0	282	108	0	46	0	1,106	108	111	180	56	0	455	130	379	332	320
	重量(t)	22.0	23.9	1.7				56.4	21.6		1.6		127.2	21.6	16.7	36.0	8.4		82.7			49.8	17.6
	PCB処理量(kg)	2	4	2				40	22		<1		71	151	3,330	252	<1		3,734			9,960	282
R2年度 (2020)	本数	119	300	60	0	0	0	152	111	7	1	0	750	271	147	281	33	0	732	183	353	176	144
	重量(t)	11.9	17.1	3.3				30.4	22.2	1.4	0.0		86.4	18.2	22.1	56.2	5.0		101.4			26.4	7.9
	PCB処理量(kg)	1	3	4				21	23	<1	<1		53	127	4,410	393	<1		4,931			5,280	127
R3年度 (2021)	本数	272	395	60	9	0	0	147	93	0	32	92	1,100	370	65	236	58	0	729	194	340	167	176
	重量(t)	27.2	22.5	3.3	1.4			29.4	18.6		1.1	5.2	108.7	24.8	9.8	47.2	8.7		90.4			25.1	9.7
	PCB処理量(kg)	3	4	4	<1			21	19		<1	<1	52	174	1,950	330	<1		2,454			5,010	155
R4年度 (2022)	本数	92	218	105	0	16	0	177	65	31	27	0	731	266	68	289	53	0	676	159	257	216	144
	重量(t)	9.2	12.4	5.8		2.4		35.4	13.0	6.4	0.9		85.5	17.8	10.2	57.8	8.0		93.8			32.4	7.9
	PCB処理量(kg)	1	2	8		<1		25	14	<1	<1		50	125	2,040	405	<1		2,570			6,480	127
R5年度 (2023) 2月末 まで	本数	130	143	62	0	5	0	95	98	0	3	16	552	11	148	31	122	0	312	129	163	144	108
	重量(t)	13.0	8.2	3.4		0.8		19.0	19.6		0.1	0.9	64.9	0.7	22.2	6.2	18.3		47.4			21.6	5.9
	PCB処理量(kg)	1	1	5		<1		13	20		<1	<1	42	5	4,440	43	<1		4,489			4,320	95
H24年度 以降合計	本数	2,700	3,902	669	65	21	150	2,167	776	178	109	108	10,845	1,372	848	1,579	1,044	0	4,843	1,297	4,849	1,617	1,648
	重量(t)	270.0	222.4	36.8	9.8	3.2	30.0	433.4	155.2	36.5	3.7	6.2	1207.1	91.9	127.2	315.8	156.6		691.5			242.6	90.6
	PCB処理量(kg)	30	40	49	<1	<1	21	306	162	1	<1	<1	611	643	25,440	2,211	8		28,302			48,510	1,450

(7) 運転廃棄物処理の推移

運転廃棄物は、当事業所の操業以来、営業物の処理及び施設の定期点検に伴い発生し続けました。

平成 23 年にはドラム缶保管数が 3,426 本となり、東棟・西棟に保管されているドラム缶保管数の増加によって営業物の処理ができなくなる可能性が出てきました。

そのような状況の中で、大阪市 PCB 処理事業監視会議（平成 23 年：第 17 回）にお諮りし、保管場所の模索の結果、近隣の倉庫（以下、「外部倉庫」という）を借用することとなり、低濃度 PCB の活性炭、PP シート・保護具などの乾燥したものを保管しました。

その後、無害化処理認定施設を活用した処理ができるよう体制整備がなされ、順調に処理を進めた結果、ドラム缶保管数が減少したので、令和 4 年 7 月に外部倉庫を解約しました。

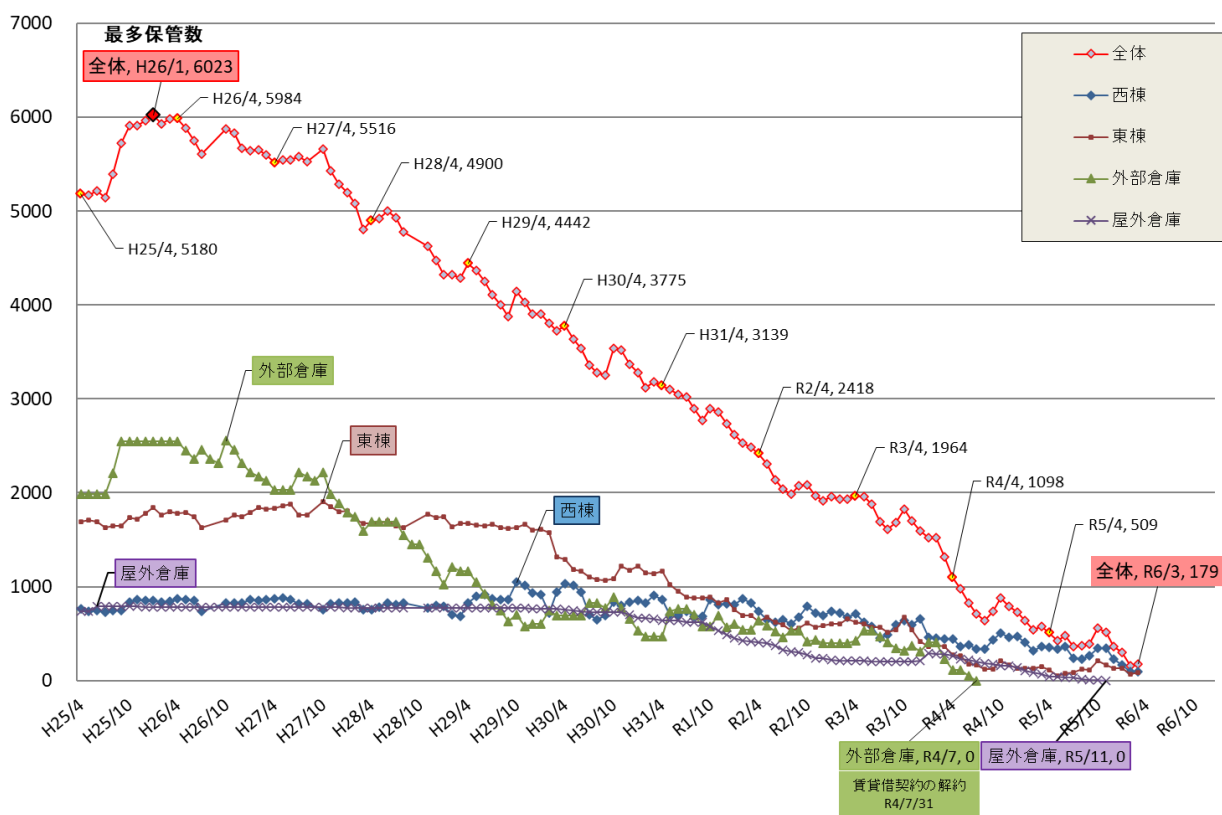
屋外倉庫は廃粉末活性炭を保管していましたが、令和 5 年 10 月中に屋外倉庫での保管数が 0 本となりました。

他事業所処理は、北九州 PCB 処理事業所への移送が令和 6 年 1 月に終了し、東京 PCB 処理事業所への移送が令和 6 年 2 月に終了しました。

令和 6 年 2 月末のドラム缶保管数は 179 本まで減っています。（図－3）

引き続き、自所処理及び無害化処理認定施設での処理を計画しており、令和 6 年度に新たに発生する運転廃棄物も含めて令和 6 年度中に全量処理すべく取り組んでいます。

図－3 運転廃棄物ドラム缶保管数の推移



2. 営業活動

(1) 総ざらいの取組み

計画的処理完了期限後に新規発見されたトランス・コンデンサ等につきましては、その都度、所管自治体と連携してPCB特別措置法の届出とJESCOへの登録に速やかに誘導し、契約・搬入・処理につなげました。

(2) 計画的処理完了期限以降の登録状況

令和4年4月1日以降、発見された廃棄物を新規登録しました。

令和6年2月末までの登録保管者は211者（トランス2台、コンデンサ304台）で、令和6年1月19日に全ての搬入を完了しました。

表－8 2府4県の新規登録保管者数、トランス・コンデンサ台数

保管者数	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	合計
R4年度4～3月	3	15	61	25	4	6	114
R5年度4～2月	1	9	53	24	4	6	97
合計	4	24	114	49	8	12	211
トランス台数	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	合計
R4年度4～3月	0	0	2	0	0	0	2
R5年度4～2月	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	2	0	0	0	2
コンデンサ台数	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	合計
R4年度4～3月	3	16	77	40	4	8	148
R5年度4～2月	0	9	76	28	6	37	156
合計	3	25	153	68	10	45	304

(3) 北九州事業エリアの継続保管物の状況

令和4年8月以降令和5年3月末までに、北九州事業エリアの継続保管物で大阪PCB処理事業所への登録が完了した保管者は145者（トランス1台、コンデンサ233台、PCB油37本）です。令和4年10月から12月にかけて集中搬入期間を設定し搬入を進めました。

その結果、令和5年3月末までに、行政代執行予定の2者（コンデンサ2台）を除く143者（トランス1台、コンデンサ231台、PCB油37本）の搬入・処理が完了しました。（表－9－1）

令和5年度に入って発見された機器等について、環境省の方針が示された令和5年8月に登録を再開し、保管者41者（トランス0台、コンデンサ105台、PCB油14本）の登録が完了しました。令和5年11月～12月を集中搬入期間として、搬入を進めて、令和5年12月22日に全ての搬入を完了しました。（表－9－2）

表－9－1 令和4年度の登録及び令和6年2月末時点の搬入台数

登録	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	(計)
保管者数	56	24	14	13	15	10	9	4	145
トランス台数	1	0	0	0	0	0	0	0	1
コンデンサー台数	90	34	21	15	17	17	35	4	233
PCB油数	12	4	6	6	2	2	4	1	37

表－9－2 令和5年度登録及び令和6年2月末時点の搬入台数

登録	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
保管者数	1	3	7	7	1	1	1	5	0
トランス台数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コンデンサー台数	1	4	36	13	1	1	1	7	0
PCB油数	0	2	3	3	0	0	1	1	0
登録	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	(計)
保管者数	9	0	0	4	1	0	1	0	41
トランス台数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コンデンサー台数	23	0	0	14	2	0	2	0	105
PCB油数	2	0	0	2	0	0	0	0	14

3. 各種モニタリング調査結果等

(1) 排出源モニタリング

モニタリング計画等に基づき実施した排水、騒音・振動及び排気の調査結果は次のとおりです。

1) 排水(汚水及び雨水)

令和5年6月及び7月に実施した外部分析機関による排水中のPCB及びダイオキシン類濃度の測定結果は、(表-10)のとおり、全11地点とも自主管理目標値未満でした。

表-10 排水(汚水・雨水)測定結果

棟名	検体	測定点	測定項目	単位	R5.6・7 2023	参考					維持 管理値	自主管理 目標値
						R4.6・7	R3.6・7	R2.6・7	R1.6・7	H30.6		
						2022	2021	2020	2019	2018		
西棟	敷地境界 汚水	①	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.11	0.093	0.0037	0.0016	0.33	0.0015	10	5
		②	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.49	1.0	0.058	0.39	0.037	0.0028	10	5
		③	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.16	0.11	0.0022	0.0018	0.049	0.0035	10	5
	④	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005	
		ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.076	0.059	0.059	0.0036	0.0050	0.0043	10	5	
	敷地境界 雨水	①	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.19	0.27	0.20	0.26	0.20	0.46	10	5
		②	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.15	0.18	0.25	1.5	0.34	0.40	10	5
③		PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005	
		ダイオキシン類	pg-TEQ/L	2.0	0.97	0.11	0.25	0.30	1.5	10	5	
東棟	敷地境界 汚水	①	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.0020	0.07	0.0031	0.066	0.055	0.010	10	5
	敷地境界 雨水	①	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.070	0.30	0.073	0.33	0.54	0.24	10	5
		②	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.075	0.13	0.059	0.24	0.18	0.24	10	5
		③	PCB	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.15	0.17	0.21	0.21	0.29	0.22	10	5

*雨水樹の清掃実施後、降雨した日の翌日に再測定を実施

注) 排水中のPCBの定量下限値は、0.0005mg/L

2) 騒音・振動

令和5年6月に実施した外部分析機関による騒音及び振動レベルは、敷地境界4地点（東、西、南、北）でいずれの時間帯も（表-11）のとおり維持管理値未満でした。

表-11 騒音・振動測定結果

棟名	測定項目（単位）		測定箇所 ／区分		R5.6 2023	参考			維持管理値
						R4.6 2022	R3.6 2021	R2.6 2020	
東西棟	騒音	騒音レベル (dB)	東	朝	53	48	48	49	60
				昼間	54	51	53	53	65
				夕	53	49	50	49	60
				夜間	51	49	49	47	55
			西	朝	57	54	56	55	60
				昼間	62	59	60	62	65
				夕	57	59	58	60	60
				夜間	54	54	55	55	55
			南	朝	57	54	55	52	60
				昼間	60	57	58	56	65
				夕	56	55	55	52	60
				夜間	54	54	54	51	55
			北	朝	56	53	53	54	60
				昼間	59	58	59	56	65
				夕	57	56	55	54	60
				夜間	53	53	53	55	55
	振動	振動レベル (dB)	東	昼間	35	32	31	32	65
				夜間	32	29	29	30	60
			西	昼間	32	27	27	31	65
				夜間	27	<25	<25	<25	60
南			昼間	38	33	32	32	65	
			夜間	31	26	26	<25	60	
北			昼間	36	33	32	34	65	
			夜間	26	26	25	28	60	

3) 排気(排気口、ボイラー)

令和5年度2回目(令和5年11月)の排出源モニタリング測定結果は、(表-12-1、2)のとおりです。PCB、ダイオキシン類、塩化水素、ベンゼン濃度等の測定を行い、全測定箇所において自主管理目標値等未満でした

ボイラー排気中の窒素酸化物、ばいじんについても自主管理目標値未満でした。

表-12-1 西棟 排気

棟名	測定箇所		測定項目	単位	結果	参考				維持管理値	自主管理目標値
					R5.11 2023	R5.5 2023	R4.11 2022	R4.5 2022	R3.11 2021		
西棟	① 西No.1-1 (P0403)	排気口 TCB分離装置	PCB	mg/m ³ N	0.0000038	0.0000045	0.0000088	0.000019	0.000011	0.1	0.01
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.000010	0.00019	0.00017	0.000047	0.00087	-	0.1
			塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	0.61
			ベンゼン	mg/m ³ N	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35
	② 西No.1-2 (P0401)	排気口 洗浄装置 蒸留装置・タケント	PCB	mg/m ³ N	0.0000098	0.000014	0.000012	0.000012	0.000010	0.1	0.01
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000037	0.000010	0.0000069	0.0000047	0.0000036	-	0.1
	③ 西No.2 (P0402)	排気口 真空加熱分離装置	PCB	mg/m ³ N	0.0000026	0.0000030	0.000015	0.000016	0.000010	0.1	0.01
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000015	0.00041	0.00021	0.049	0.000019	-	0.1
			ベンゼン	mg/m ³ N	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35
			アセトアルデヒド	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-	0.1
			トルエン	ppm	-	<0.1	-	<0.1	-	-	0.1
	④ 西No.3 (P0201)	排気口 レベル3換排気 解体室	PCB	mg/m ³ N	0.0000027	0.0000016	0.0000075	0.000011	0.0000045	0.1	0.01
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000011	0.0000029	0.000010	0.000024	0.0000048	-	0.1
	⑤ 西No.4 (P0202)	排気口 レベル3換排気 漏洩品解体準備室	PCB	mg/m ³ N	0.0000032	0.0000039	0.0000046	0.0000072	0.0000026	0.1	0.01
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000025	0.0000062	0.0000037	0.0037	0.0000016	-	0.1
	⑥ 西No.6-1 (P0203)	排気口 レベル2換排気 局所排気、除染処理室	PCB	mg/m ³ N	0.000040	0.0000078	0.0000092	0.000017	0.000076	0.1	0.01
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000093	0.00011	0.0000096	0.0000095	0.000010	-	0.1
	⑦ 西No.6-2 (P0205)	排気口 レベル2換排気 抜油室	PCB	mg/m ³ N	0.0000024	0.0000041	0.0000015	0.0000010	0.0000022	0.1	0.01
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000031	0.000013	0.0000059	0.0011	0.0000027	-	0.1
	⑧ 西No.7 (P0204)	排気口 レベル1換排気	PCB	mg/m ³ N	0.0000032	0.0000025	0.0000051	0.0000085	0.0000051	0.1	0.01
ダイオキシン類			ng-TEQ/m ³ N	0.0000051	0.0000037	0.0000073	0.0000047	0.0000037	-	0.1	
-	ボイラー 排気口 西No.5	窒素酸化物	ppm	35	37	45	37	32	150	60	
		ばいじん	g/m ³ N	<0.003	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.05	Trace	

表-12-2 東棟 排気

棟名	測定箇所		測定項目	単位	結果	参考					維持管理値	自主管理目標値	
					R5.11 2023	R5.7(再測定) 2023	R5.5 2023	R4.11 2022	R4.5 2022	R3.11 2021			
東棟	①	排気口 東No.1-1 (P0451)	高濃度ヘントガス	PCB	mg/m ³ N	0.00017	-	0.00012	0.000038	0.000032	0.000017	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.00068	-	0.0037	0.0019	0.0024	0.00085	-	0.1
	②	排気口 東No.1-2 (P0452)	低濃度ヘントガス	PCB	mg/m ³ N	0.00019	-	0.000025	0.0000098	0.000026	0.000038	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.000030	-	0.00052	0.00020	0.000036	0.000040	-	0.1
	③	排気口 東No.1-3 (P0453)	脱気槽ヘントガスA	PCB	mg/m ³ N	0.000029	-	0.000014	0.000014	0.000028	0.000063	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.00055	-	0.00026	0.00015	0.000063	0.0030	-	0.1
	④	排気口 東No.1-4 (P0454)	脱気槽ヘントガスB	PCB	mg/m ³ N	0.00017	-	0.000050	0.000020	0.000040	0.000013	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0010	-	0.00076	0.000035	0.000041	0.0021	-	0.1
	⑤	排気口 東No.2-1 (P0457)	H ₂ ガスヘントA	PCB	mg/m ³ N	0.0000076	-	0.000013	0.000014	0.0000075	0.0000097	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.000011	0.000021	0.00078	0.000032	0.0000096	0.000016	-	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	0.61
				ベンゼン	mg/m ³ N	<0.05	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35
	⑥	排気口 東No.2-2 (P0458)	H ₂ ガスヘントB	PCB	mg/m ³ N	0.000016	-	0.0000089	0.000085	0.000020	0.000022	0.1	0.01
ダイオキシン類				ng-TEQ/m ³ N	0.000027	-	0.00013	0.00016	0.000023	0.000017	-	0.1	
塩化水素				ppm	<0.1	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	0.61	
ベンゼン				mg/m ³ N	<0.05	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35	
⑦	排気口 東No.2-3 (P0456)	塩酸ヘントガスA	PCB	mg/m ³ N	0.0000047	-	0.000015	0.000011	0.000024	0.000010	0.1	0.01	
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000029	-	0.000020	0.0000057	0.000025	0.0000097	-	0.1	
			塩化水素	ppm	<0.1	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	0.61	
			ベンゼン	mg/m ³ N	<0.05	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35	
⑧	排気口 東No.2-4 (P0460)	塩酸ヘントガスB	PCB	mg/m ³ N	0.000017	0.0000087	0.00034	0.0000099	0.0000081	0.0000052	0.1	0.01	
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.000042	0.000012	0.00020	0.000016	0.000010	0.0000074	-	0.1	
			塩化水素	ppm	<0.1	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	0.61	
			ベンゼン	mg/m ³ N	<0.05	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35	
⑨	排気口 東No.4-1 (P0253)	レベル2換排気 局所排気	PCB	mg/m ³ N	0.00036	-	0.000068	0.000075	0.00014	0.00015	0.1	0.01	
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0012	-	0.00064	0.000043	0.000097	0.00080	-	0.1	
⑩	排気口 東No.4-2 (P0251)	レベル2換排気 汚染室、廃活性炭ケール室他	PCB	mg/m ³ N	0.0000053	-	0.000015	0.000028	0.0000086	0.0000061	0.1	0.01	
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0000030	-	0.00026	0.00077	0.0000094	0.0000063	-	0.1	
⑪	排気口 東No.5 (P0252)	レベル1換排気	PCB	mg/m ³ N	0.000026	-	0.00010	0.000034	0.000016	0.000012	0.1	0.01	
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.000017	-	0.00058	0.000087	0.000012	0.00015	-	0.1	
⑫	排気口 東No.6-1 (P0455)	蒸留設備ヘントガスA	PCB	mg/m ³ N	0.000022	-	0.0000075	0.000010	0.0000079	0.0000079	0.1	0.01	
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.000037	-	0.00015	0.000022	0.000011	0.0015	-	0.1	
			塩化水素	ppm	<0.1	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	0.61	
			ベンゼン	mg/m ³ N	<0.05	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35	
⑬	排気口 東No.6-2 (P0459)	蒸留設備ヘントガスB	PCB	mg/m ³ N	0.000021	-	0.000012	0.0000080	0.0000097	0.0000076	0.1	0.01	
			ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.000050	-	0.000025	0.000015	0.000026	0.000017	-	0.1	
			塩化水素	ppm	<0.1	-	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-	0.61	
			ベンゼン	mg/m ³ N	<0.05	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	-	0.35	
-	ボイラー 排気口 東No.3		窒素酸化物	ppm	37	-	41	43	37	40	150	60	
			ばいじん	g/m ³ N	<0.002	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.05	Trace	

(2) 周辺環境モニタリング

令和4年度春期から令和5年度秋期にかけて事業所敷地内及び事業所周辺の2地点において、PCB、ダイオキシン類、ベンゼン及び臭気の現況調査を実施した結果は、(表-13~15)のとおり、いずれも環境基準値等を下回っていました。

1) 採取期間

①大気環境調査

令和5年度：春期：令和5年5月10日～5月17日
 夏期： 〃 7月12日～7月19日
 秋期： 〃 10月5日～10月12日
 冬期：令和6年2月13日～2月20日（分析中）

②臭気測定

令和5年10月11日

2) 測定結果

表-13 令和5年度実施の周辺環境モニタリング結果

実施時期	項目	単位	事業所敷地内	事業所周辺 ^{*1}	環境基準値等 ^{*2}
令和5年度 春期 (R5.5.10~R5.5.17)	PCB	mg/m ³ 【ng/m ³ 】	0.00000037 【0.37】	0.00000032 【0.32】	0.0005 【500】
	ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.029	0.012	0.6
	ベンゼン	mg/m ³	0.00073	0.00070	0.003
令和5年度 夏期 (R5.7.12~R5.7.19)	PCB	mg/m ³ 【ng/m ³ 】	0.00000039 【0.39】	0.00000034 【0.34】	0.0005 【500】
	ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.0097	0.0093	0.6
	ベンゼン	mg/m ³	0.00051	0.00038	0.003
令和5年度 秋期 (R5.10.5~R5.10.12)	PCB	mg/m ³ 【ng/m ³ 】	0.00000038 【0.38】	0.00000028 【0.28】	0.0005 【500】
	ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.014	0.011	0.6
	ベンゼン	mg/m ³	0.00065	0.00065	0.003

*1:事業所南側に位置する大阪ガス舞洲営業技術センター敷地内

*2:PCBについては環境庁大気保全局長通達(昭和47年環大企141号)に基づく暫定濃度、ダイオキシン類及びベンゼンは環境基準値

表-14 経年変化(PCB)

(単位:ng/m³)

場所	年度	H17 ^{*1}	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5 ^{*2}
		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
事業所敷地内		0.80	0.70	0.78	0.78	1.20	0.64	0.78	0.44	0.69	0.47	0.39	0.39	0.38	0.42	0.46	0.44	0.36	0.31	0.38
事業所周辺 ^{*3}		0.55	0.56	0.62	0.48	0.73	0.54	0.55	0.28	0.42	0.36	0.36	0.31	0.30	0.33	0.33	0.38	0.29	0.29	0.31

*1:平成17年度は、施設建設段階
 *2:令和5年度は、春期、夏期、秋期の平均値
 *3:事業所南側に位置する大阪ガス舞洲営業技術センター敷地内
 注:環境庁大気保全局長通達(昭和47年環大企141号)に基づく暫定濃度:500ng/m³

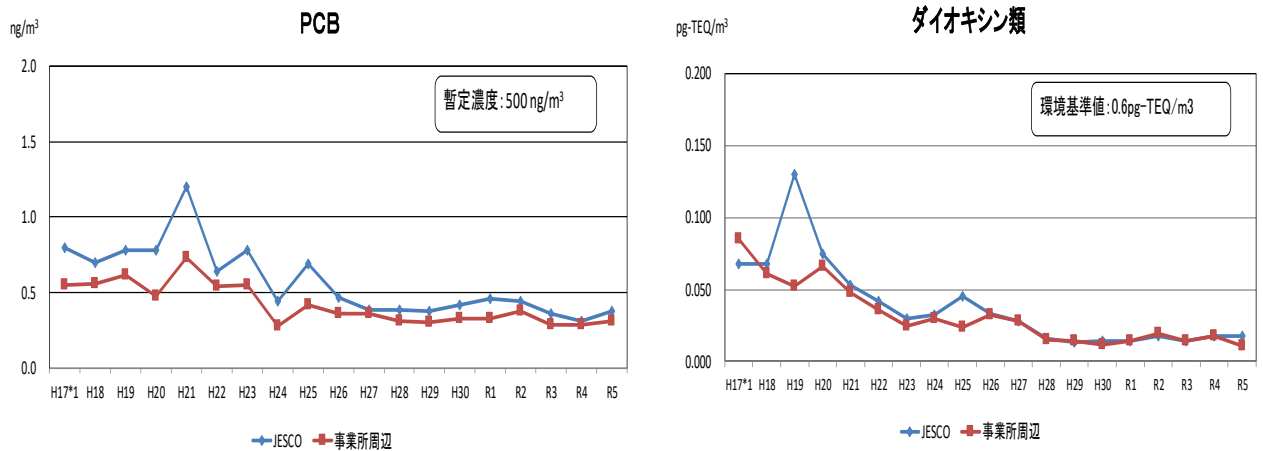
表-15 経年変化(ダイオキシン類)

(単位:pg-TEQ/m³)

場所	年度	H17 ^{*1}	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5 ^{*2}
		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
事業所敷地内		0.068	0.068	0.130	0.075	0.053	0.042	0.030	0.032	0.045	0.033	0.028	0.016	0.013	0.014	0.014	0.018	0.014	0.018	0.018
事業所周辺 ^{*3}		0.085	0.061	0.052	0.066	0.048	0.036	0.025	0.030	0.024	0.032	0.028	0.015	0.014	0.012	0.014	0.019	0.014	0.018	0.011

*1:平成17年度は、施設建設段階
 *2:令和5年度は、春期、夏期、秋期の平均値
 *3:事業所南側に位置する大阪ガス舞洲営業技術センター敷地内
 注:環境基準値:0.6pg-TEQ/m³

図-4 経年変化(PCB、ダイオキシン類)



*1:平成17年度は、施設建設段階
 *2:令和5年度は、春期、夏期、秋期の平均値

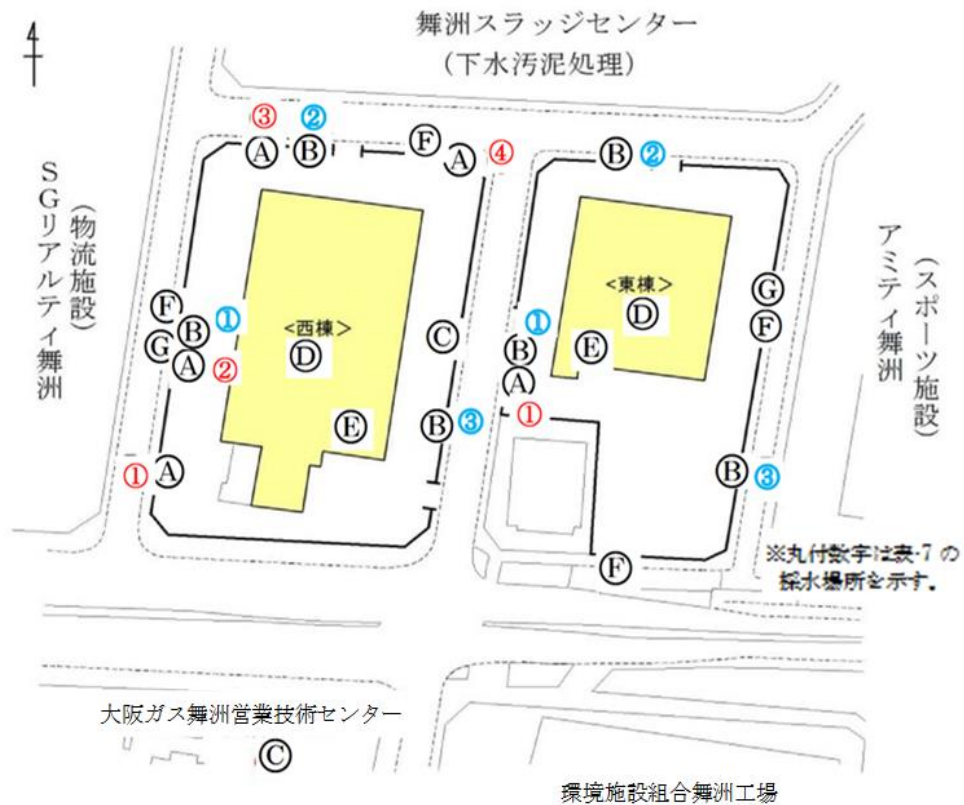
*1:平成17年度は、施設建設段階
 *2:令和5年度は、春期、夏期、秋期の平均値

表-16 臭気測定結果

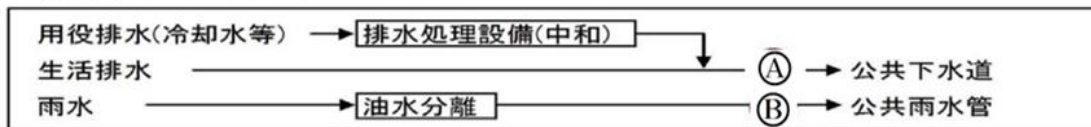
(令和5年10月11日実施)

項目	単位	西棟敷地内	東棟敷地内	維持管理値 ^{*1}
臭気指数 ^{*2}	—	<10	<10	10
アセトアルデヒド	ppm	0.003	0.002	0.05
トルエン	ppm	定量下限値未満	定量下限値未満	10

*1 大阪市環境事業局長通知(H18.8.31付)
 *2 三点比較式臭袋法(公定法)により実施し、測定下限値は臭気指数10



排出水のモニタリング



周辺環境モニタリング

大気	Ⓒ	4回/年	敷地内 1箇所(西棟東側)、敷地外 1箇所(敷地南約300m)
----	---	------	---------------------------------

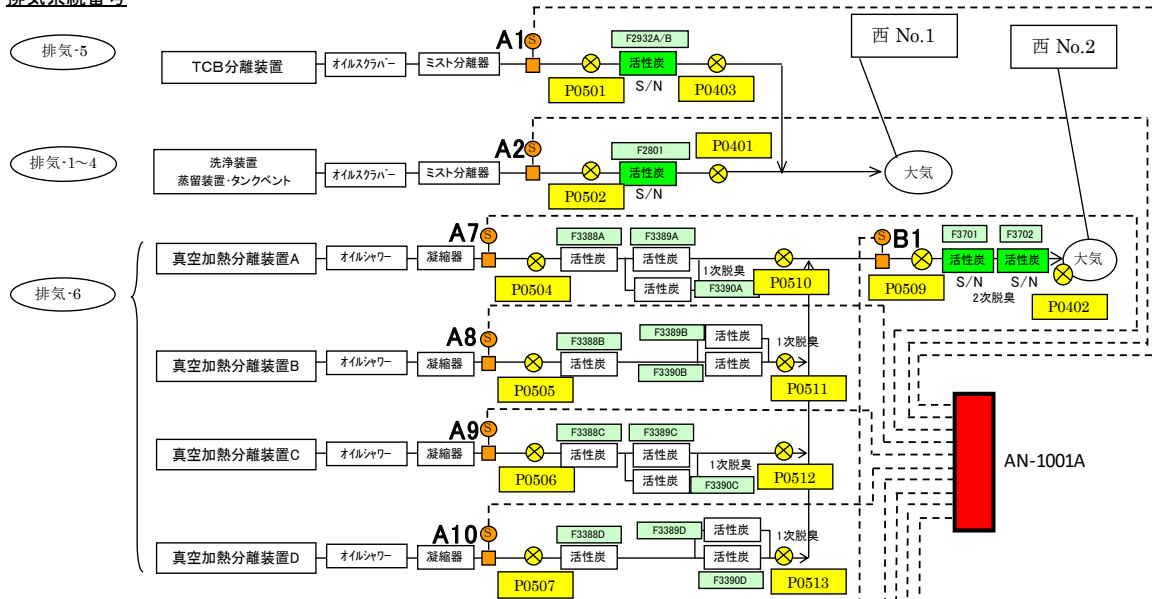
排出モニタリング

換排気	Ⓓ	2回/年	<table border="0"> <tr> <td>西棟</td> <td>No.1-1</td> <td rowspan="4">} 測定項目4項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.1-2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.4</td> <td rowspan="2">} 測定項目3項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.6-1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.7</td> <td rowspan="2">} 測定項目2項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.6-2</td> </tr> <tr> <td>東棟</td> <td>No.1-1</td> <td rowspan="2">} 測定項目2項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.1-2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.1-3</td> <td rowspan="2">} 測定項目4項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.1-4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.2-1</td> <td rowspan="2">} 測定項目4項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.2-2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.2-3</td> <td rowspan="2">} 測定項目2項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.2-4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.4-1</td> <td rowspan="2">} 測定項目2項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.4-2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.5</td> <td rowspan="2">} 測定項目4項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.6-1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>No.6-2</td> <td></td> </tr> </table>	西棟	No.1-1	} 測定項目4項目		No.1-2		No.2		No.3		No.4	} 測定項目3項目		No.6-1		No.7	} 測定項目2項目		No.6-2	東棟	No.1-1	} 測定項目2項目		No.1-2		No.1-3	} 測定項目4項目		No.1-4		No.2-1	} 測定項目4項目		No.2-2		No.2-3	} 測定項目2項目		No.2-4		No.4-1	} 測定項目2項目		No.4-2		No.5	} 測定項目4項目		No.6-1		No.6-2	
西棟	No.1-1	} 測定項目4項目																																																					
	No.1-2																																																						
	No.2																																																						
	No.3																																																						
	No.4	} 測定項目3項目																																																					
	No.6-1																																																						
	No.7	} 測定項目2項目																																																					
	No.6-2																																																						
東棟	No.1-1	} 測定項目2項目																																																					
	No.1-2																																																						
	No.1-3	} 測定項目4項目																																																					
	No.1-4																																																						
	No.2-1	} 測定項目4項目																																																					
	No.2-2																																																						
	No.2-3	} 測定項目2項目																																																					
	No.2-4																																																						
	No.4-1	} 測定項目2項目																																																					
	No.4-2																																																						
	No.5	} 測定項目4項目																																																					
	No.6-1																																																						
	No.6-2																																																						
ボイラー	Ⓔ	2回/年 (1回/年)	<table border="0"> <tr> <td>西棟</td> <td>No.5</td> <td rowspan="2">} 測定項目2項目</td> </tr> <tr> <td>東棟</td> <td>No.3</td> </tr> </table>	西棟	No.5	} 測定項目2項目	東棟	No.3																																															
西棟	No.5	} 測定項目2項目																																																					
東棟	No.3																																																						
騒音・振動	Ⓕ	1回/年	東西南北 4箇所																																																				
悪臭	Ⓖ	1回/年	排出口(No.2) 測定項目3項目 及び敷地境界2箇所(風上風下) 測定項目3項目																																																				

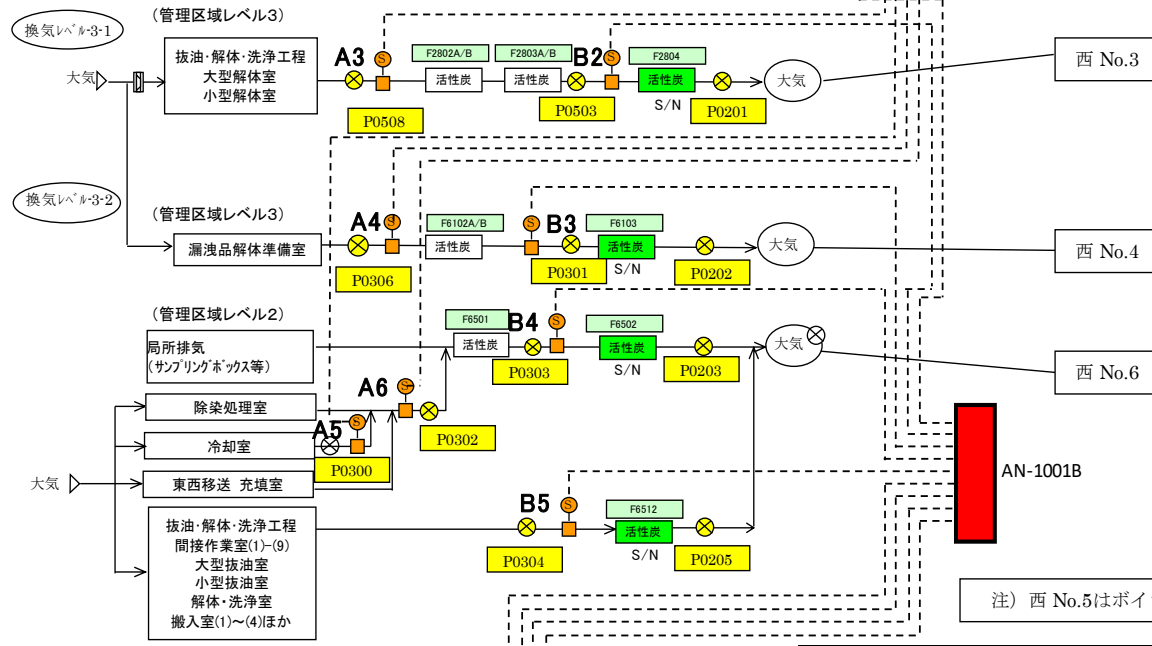
西棟オンラインモニタリング概略系統図

●PCBを取扱う設備の排気

排気系統番号



●作業空間の換気



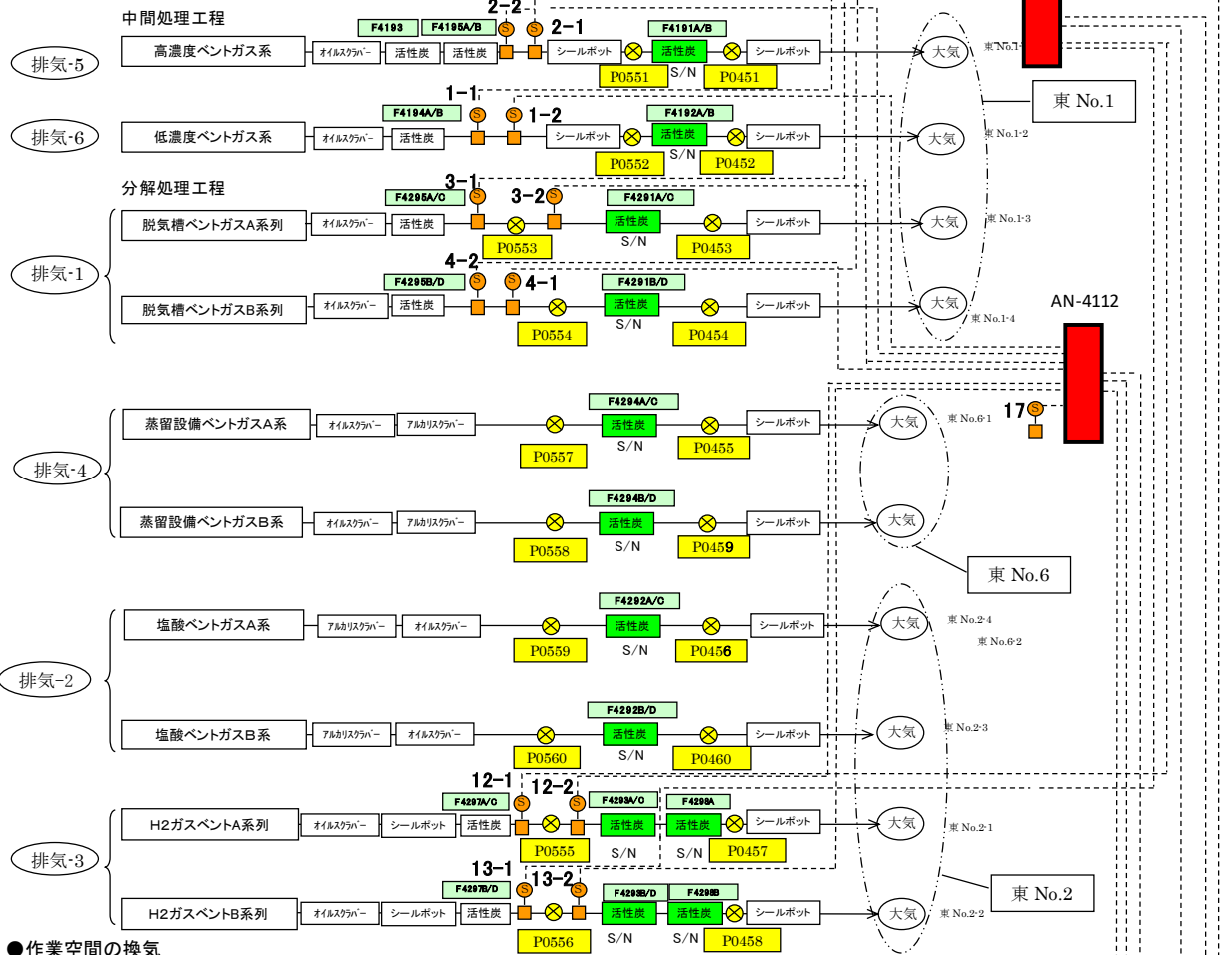
注) 西 No.5はボイラ排気

記号説明	
	オフラインモニタリング点(サンプリング口)
	オンラインモニタリング点(プローブ管挿入)
	排気口
	サンプリングポイントIDNo.
	活性炭フィルター機器番号
	セーフティネット活性炭フィルター
	脱臭用活性炭フィルター

東棟オンラインモニタリング概略系統図

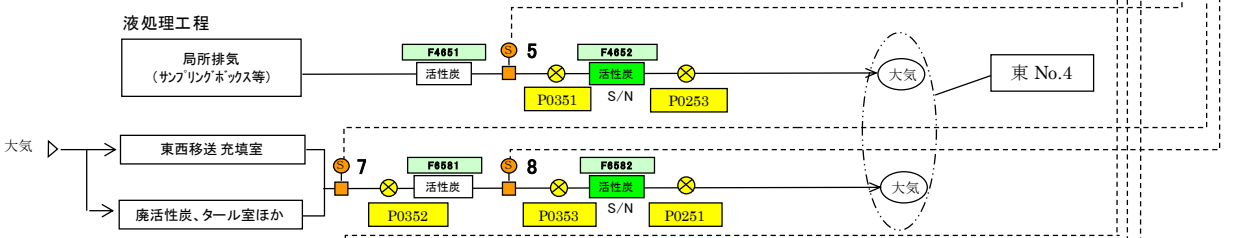
●PCBを取扱う設備の排気

排気系統番号

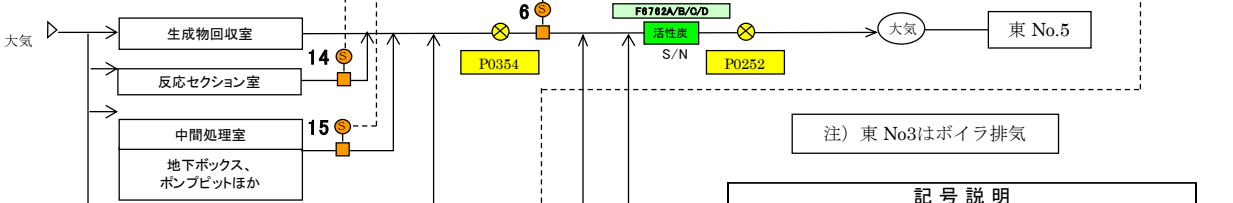


●作業空間の換気

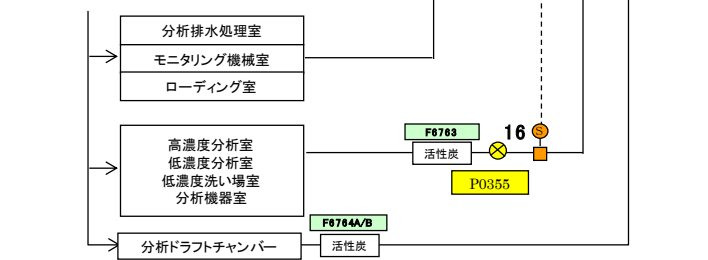
(管理区域レベル2)



(管理区域レベル1)



(一般PCB廃棄物取扱区域)



注) 東 No.3はボイラ排気

記号説明	
	オフラインモニタリング点(サンプリング口)
	オンラインモニタリング点(プローブ管挿入)
	排気口
	サンプリングポイントIDNo.
	活性炭フィルター機器番号
	セーフティネット活性炭フィルター
	活性炭フィルター

4. 作業環境測定結果

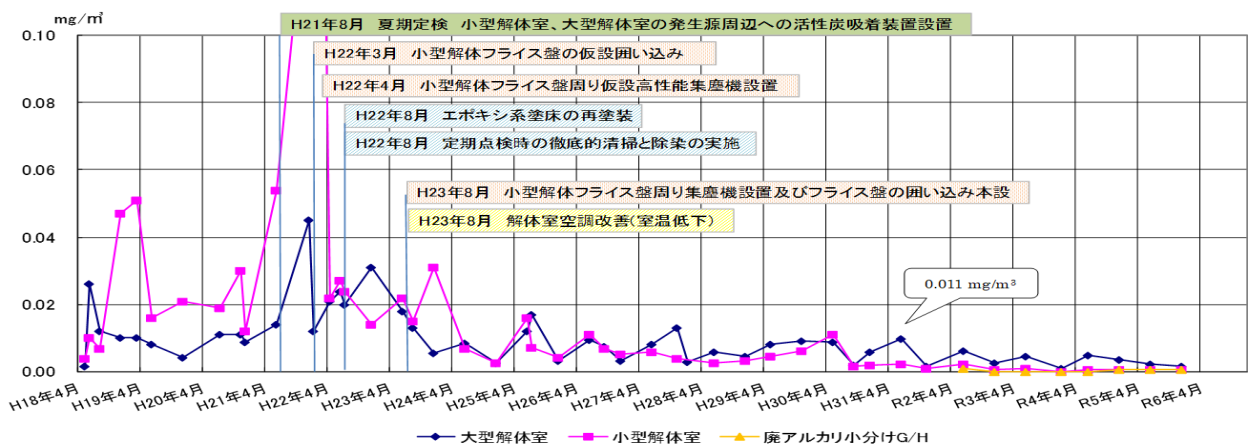
(1) PCB濃度

作業従事者のPCB曝露防止のため、労働安全衛生法特定化学物質障害予防規則に基づき、大型解体室、小型解体室、及び処理困難物倉庫（廃アルカリ小分けG/H:ブース）の作業環境中のPCB濃度の測定（法定測定）を毎年度2回実施（状況に応じ追加測定を実施）しています。

また、同等の管理が必要として受入検査室、抜油室、VTR処理室等を自主測定として同様に測定を実施しています。その測定結果は(表-17)(P22)に示しています。大型解体室等の測定結果の経年変化を(図-5)に示しています。平成30年5月の測定では小型解体室で許容濃度 0.01 mg/m^3 を超過しましたので、定期検査時に清掃と除染を行い許容濃度以下となりました。その後の測定でも許容濃度以下を確認しています。

運転廃棄物として発生する廃アルカリを小分けし、ドラム缶の充填量を少なくして処理を行うための廃アルカリ小分けG/Hを処理困難物倉庫内に設置し、その測定を令和2年度から実施しています。

図-5 作業環境中PCB濃度の経年変化及びPCB濃度低減対策実施状況

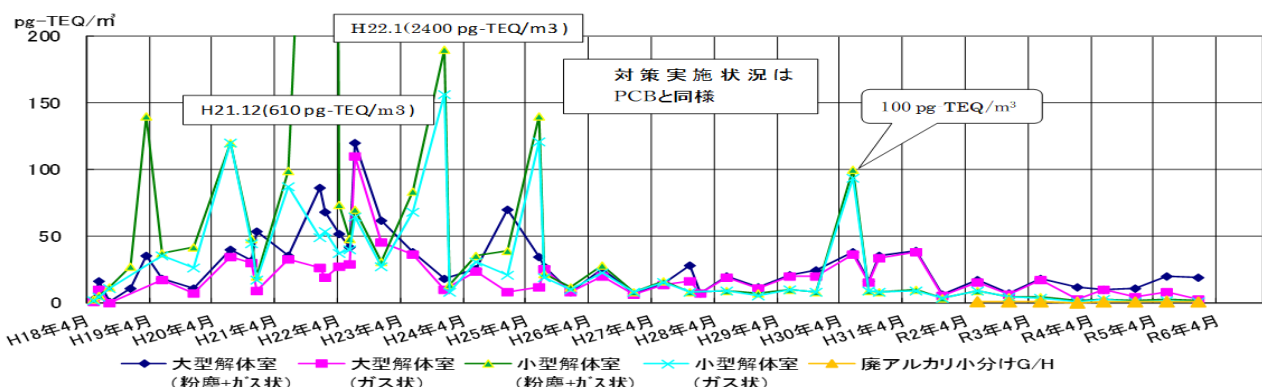


(2) ダイオキシン類濃度

図-6、表-17 (P22)に示すとおり、平成30年5月の測定で小型解体室のダイオキシン類濃度が 100 pg-TEQ/m^3 と上昇しましたが、定期検査時に清掃と除染を行い、その後令和5年12月の定期測定まで、上昇前と同程度を維持しています。

大型解体室は令和元年度定期検査時に徹底的に清掃と除染を行い低下し、その後、令和元年度と同程度を維持しています。

図-6 作業環境中ダイオキシン類濃度の経年変化



(3) 作業環境の改善対策

作業環境中のPCB及びダイオキシン類濃度が高いエリアにおける作業環境の改善対策について、比較的濃度の高い次のエリアについては、「大阪PCB廃棄物処理事業監視部会」でのご助言等を踏まえて順次対策を実施しています。

1) 大型解体室及び小型解体室

平成21年8月に切断装置付近、及び仕掛品の置き場周辺に活性炭吸着装置を設置しました。平成22年3月に小型解体室のフライス盤周りの囲込みの仮設工事を行い、平成22年4月に高性能集じん装置を仮設設置しました。その後、平成23年8月に小型解体室のフライス盤装置の囲込み、及びフライス盤の主軸周りの集中集塵方式の本設化工事を行いました。

平成23年8月にPCB等の蒸散を抑えるため空調設備を改善して室温低下を図りました。

平成30年5月に実施した測定において、小型解体室で許容濃度(0.01 mg/m³)を超過しました。測定の際、特にPCBが蒸散するような作業はなく、原因は明らかではありませんが、定期検査時に清掃と除染を行いました。

これらの対策を実施後、PCB濃度は許容濃度(0.01 mg/m³)以下となっています。

しかし、令和4年6月の測定でダイオキシン類濃度については管理濃度(2.5 pg-TEQ/m³)を超過しているため、夏の定期検査時には徹底的に清掃、除染を行っています。

なお、令和4年以降、小型解体室での作業を取りやめて、一部機器の解体撤去を進めており、5月末までには一部搬送設備を残して、その他すべての機器の解体撤去を行います。

2) VTR処理室

ダイオキシン類濃度につきましては、平成25年度に、未処理品の一時置場付近を中心にVTR搬入棚、VTRステーションテーブル、設備メンテナンス用グリーンハウスに局所排気装置等を設置した結果、平成25年11月以降、管理濃度(2.5 pg-TEQ/m³)以下を維持しています。

3) 大型抜油室、小型抜油室、タンク室

大型抜油室及び小型抜油室は度々ダイオキシン類の管理濃度を超えていますので、引き続き定期検査時に、機器下部等作業時には実施の困難な場所も含めて清掃・除染を実施します。

タンク室については、平成27年夏の定期検査時にストレーナー改良による清掃作業の改善、局所排気装置の増強対策工事を実施した結果、ダイオキシン類の管理濃度以下を維持していましたが、夏場の5月から6月にかけての測定では管理濃度を超過することから、夏の定期検査時に徹底的な清掃、除染を行っており、一定レベル以下を確認しています。

4) 蒸留室、中間処理室

両室とも度々ダイオキシン類の管理濃度を超過しています。機器の開放点検が主な汚染の原因になっていると思われませんが、両室とも1階から5階までグレーチングによる吹き抜け構造で、熱源となる蒸留塔が存在するため、室温の低減や作業時には清掃が困難な場所であることから、定期検査時に重点的な清掃・除染を実施して、一定レベル以下を確認しています。

表-17 作業環境測定結果

○ 測定値の赤字は管理濃度等の超過を表す。

棟名	階	測定対象室名	管理区域 スケール	R5.12実施 (2023.12)			R5.6実施 (2023.6)			R4.12実施 (2022.12)			R4.6実施 (2022.6)			R4.1実施 (2022.1)			R3.6実施 (2021.6)			R2.12実施 (2020.12)			
				PCB (mg/m³)		DXNs (μg-TEQ/m³)	PCB (mg/m³)		DXNs (μg-TEQ/m³)	PCB (mg/m³)		DXNs (μg-TEQ/m³)	PCB (mg/m³)		DXNs (μg-TEQ/m³)	PCB (mg/m³)		DXNs (μg-TEQ/m³)	PCB (mg/m³)		DXNs (μg-TEQ/m³)	PCB (mg/m³)		DXNs (μg-TEQ/m³)	
				A測定*	B測定	粉じん+ガス <粉じん>	A測定*	B測定	粉じん+ガス <粉じん>	A測定*	B測定	粉じん+ガス <粉じん>	A測定*	B測定	粉じん+ガス <粉じん>	A測定*	B測定	粉じん+ガス <粉じん>	A測定*	B測定	粉じん+ガス <粉じん>	A測定*	B測定	粉じん+ガス <粉じん>	
			管理濃度等	0.01	<0.0005	2.5	0.01	<0.0005	2.5	0.01	<0.0005	2.5	0.01	<0.0005	2.5	0.01	<0.0005	2.5	0.01	<0.0005	2.5	0.01	<0.0005	2.5	
	1F	受入検査室	1	—	<0.0005	0.11	—	<0.0005	0.25	—	<0.0005	0.17	—	<0.0005	0.57	—	<0.0005	0.19	—	<0.0005	0.86	—	<0.0005	0.38	
	1F	除染処理室	2	—	<0.0005	0.14	—	<0.0005	0.23	—	<0.0005	0.083	—	<0.0005	0.16	—	<0.0005	0.19	—	<0.0005	0.35	—	<0.0005	0.19	
	1F	潤滑品解体準備室	3	—	<0.0005	1.7	—	<0.0005	0.50	—	<0.0005	0.30	—	0.0008	0.94	—	<0.0005	0.62	—	<0.0005	0.85	—	<0.0005	0.20	
	1F	大型抜油室	2	—	<0.0005	0.70	—	0.0008	2.3	—	<0.0005	1.0	—	0.0006	2.8	—	<0.0005	0.79	—	<0.0005	4.7	—	<0.0005	2.0	
	1F	小型抜油室(1)	2	—	<0.0005	0.57	—	0.0008	1.3	—	<0.0005	0.60	—	0.0008	2.0	—	<0.0005	0.63	—	<0.0005	2.7	—	<0.0005	1.2	
	1F	小型抜油室(2)	2	—	0.0009	1.6	—	0.0014	3.9	—	0.0006	1.9	—	0.0009	3.5	—	<0.0005	2.3	—	0.0034	16	—	0.0014	3.8	
	1F	大型解体室	3	0.0018	0.0015	19	0.0019	0.0021	20	0.0029	0.0035	11	0.0043	0.0030	10	0.0008	<0.0005	<0.0005	12	0.0036	0.0047	18	0.0026	0.0025	
	1F	小型解体室	3	0.0007	0.0005	<0.44>	0.0005	<0.0005	<0.40>	0.0006	0.0006	<0.51>	0.0007	0.0006	2.5	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.16>	0.0011	0.0008	3.9	0.0009	0.0017	
	1F	解体前洗浄室	2	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	—	—	—	—	<0.0005	
	1F	間接作業室(4)	2	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	—	—	—	—	<0.0005	
	1F	解体室外周通路	2	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	—	—	—	—	<0.0005	
	1F	充填室(西)	2	—	<0.0005	0.24	—	<0.0005	0.82	—	<0.0005	0.49	—	<0.0005	0.44	—	<0.0005	0.14	—	<0.0005	0.83	—	<0.0005	0.29	
	1F	如理難物倉庫& 廃アルカリ分けG/H	1	—	<0.0005	0.084	—	<0.0005	0.18	—	<0.0005	0.21	—	<0.0005	0.21	—	<0.0005	0.13	—	<0.0005	0.40	—	<0.0005	0.41	
	1F	タンク室	1	—	0.0005	0.40	—	0.0005	1.1	—	0.0005	0.47	—	<0.0005	0.50	—	<0.0005	0.21	—	<0.0005	0.95	—	<0.0005	0.47	
	1F	タンク室	1	—	0.0005	0.46	—	0.0008	2.1	—	0.0006	0.86	—	<0.0005	1.2	—	<0.0005	0.55	—	<0.0005	2.5	—	<0.0005	0.64	
	1F	蒸留室	1	—	<0.0005	0.93	—	<0.0005	5.7	—	<0.0005	2.3	—	<0.0005	7.3	—	<0.0005	0.27	—	0.0007	20	—	<0.0005	0.73	
	3F	蒸留室	1	—	<0.0005	1.1	—	<0.0005	4.8	—	<0.0005	2.2	—	<0.0005	7.4	—	<0.0005	0.34	—	0.0009	22	—	<0.0005	0.93	
	3F	VTR処理室(1)	1	—	<0.0005	0.13	—	<0.0005	0.32	—	<0.0005	0.44	—	<0.0005	0.43	—	<0.0005	0.11	—	<0.0005	0.68	—	<0.0005	0.34	
	3F	VTR処理室(2)	1	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	
	3F	VTR処理室(3)	1	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	
	1F	充填室(東)	2	—	<0.0005	0.95	—	<0.0005	3.1	—	<0.0005	0.86	—	<0.0005	2.0	—	<0.0005	0.30	—	<0.0005	3.1	—	<0.0005	0.72	
	1F	反応セクション室	1	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	
	1F	中間処理室	1	—	金測定点 <0.0005	1.6	—	金測定点 <0.0005	5.0	—	金測定点 <0.0005	1.7	—	金測定点 <0.0005	3.2	—	金測定点 <0.0005	0.82	—	金測定点 <0.0005	3.1	—	金測定点 <0.0005	1.7	—
	3F	中間処理室	3	—	<0.0005	4.6	—	<0.0005	11	—	<0.0005	3.9	—	<0.0005	7.2	—	<0.0005	1.8	—	0.0011	8.6	—	<0.0005	6.9	

※ 毒性等価係数は、WHO (IPCS2006)のTEFを適用した。
 〆 幾何平均値を記載
 *1: 廃アルカリ分けG/H: 廃アルカリ分けグリーンハンハウス(ブース)

(4) 作業従事者の健康管理

大阪PCB処理事業所においては、作業従事者の健康管理として、労働安全衛生法に基づく特殊健康診断の実施に加え、血中PCB及びダイオキシン類濃度の測定を定期的に行って管理しています。

PCB廃棄物を取り扱うエリアで作業する作業従事者を対象に採血し、毎年6月を目途に血中PCBを測定しており、令和5年6月までの状況については、血中PCB濃度が、全作業従事者において健康管理の目安となる生物学的許容値である25ng/g-血液を下回っていました。

平成30年度から大型解体室や小型解体室で作業する解体班全員と他の班において血中PCB濃度が6月の測定において2ng/g-血液以上であった者を対象に12月に採血し測定しており、令和5年12月採血分は現在分析中です。

血脂中ダイオキシン類濃度については、平成30年度から12月に採血・測定を実施しています。環境省の調査結果（ダイオキシン類関係作業に従事していない者を対象とした調査）と同等又はそれ以下をJESCOの当面の健康管理の目安としており、令和4年12月の測定結果では、最大値が31pg-TEQ/g-lipidの作業従事者がいましたが、平成23～28年度の環境省調査結果（0.39～56pg-TEQ/g-lipid）を下回っており、令和5年12月採血分は現在分析中です。

また、作業従事者に対して血中濃度結果を通知する際、吸収缶の交換、保護マスクの装着時の注意点、保護具の脱着、保管方法、入出時間等の作業状況や安全衛生上の注意事項の遵守状況などをヒアリングし、必要に応じて指導しています。

今後も測定を継続し、健康管理を進めてまいります。

5. ヒヤリハット・キガカリの取り組み状況

ヒヤリハット・キガカリ活動は、事業所の安全レベル向上と危険のない職場づくりのために、積極的に取り組んでいます。作業時からの提出件数は(表-18)のとおりです。作業員から提出された案件は、タスクチームで1件毎に内容を確認し、改善が望ましいと判断した案件については確実に改善を進めています。これらの実施状況については、毎月開催されるJESCO/運転会社の安全衛生協議会で報告されています。

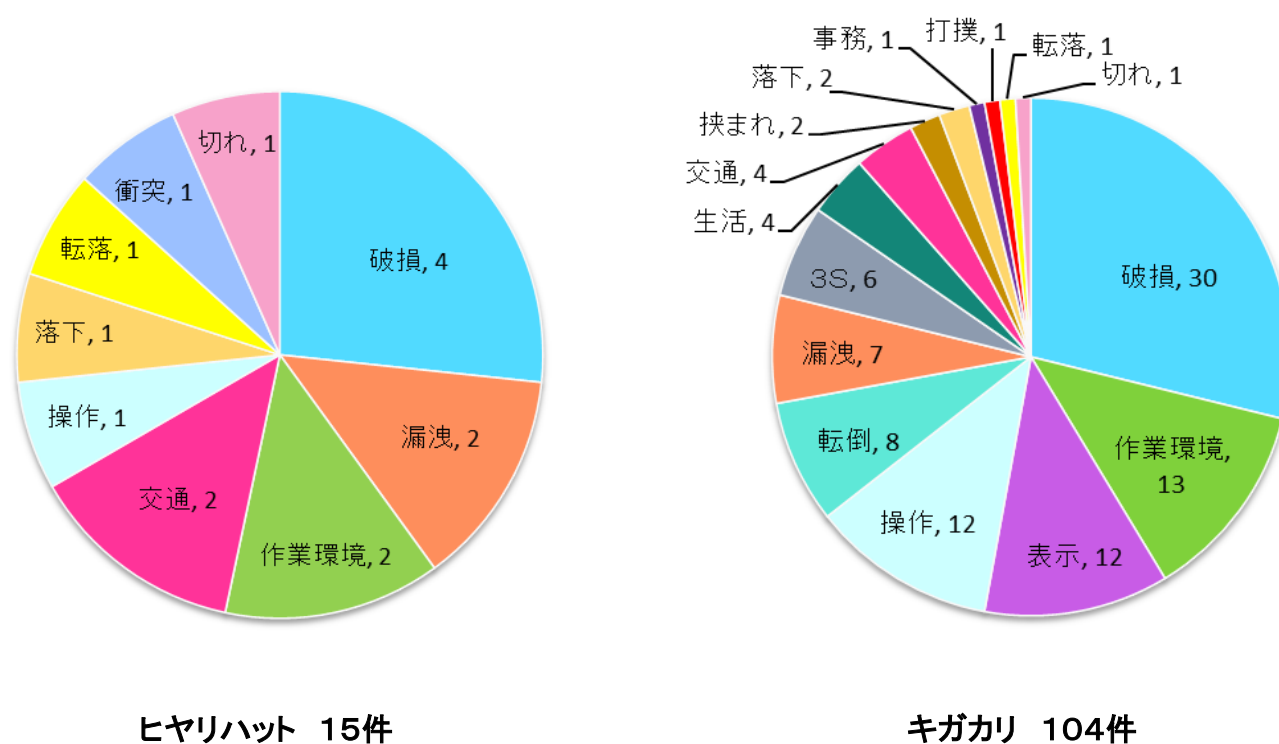
また、令和5年4月から令和6年2月の間に提出されたヒヤリハット・キガカリ案件の項目別分類は(図-7)に示すとおりです。

表-18 ヒヤリハット・キガカリの提出件数

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5*
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ヒヤリハット	78	162	21	66	99	75	78	40	98	98	98	74	77	55	30	41	23	15
キガカリ	41	357	168	293	247	205	306	171	236	236	274	244	262	268	200	196	139	104

*R6年2月末

図-7 ヒヤリハット・キガカリ項目別分類件数(令和5年4月～令和6年2月)



なお、労働災害の未然防止策をより有効に進めるため、JESCO全事業所においてヒヤリハット案件のリスク評価を行いリスクが高いものについては、インシデントと位置付けて本社に報告し各事業所に水平展開するとともにリスク低減策を講じています。

リスク評価は、リスクの見積もり(表-19)を基に評価しており、(表-20)にリスク評価結果を示します。大阪PCB処理事業所では、このリスク評価結果においてリスクレベルⅢ以上のものをインシデントとしていますが、令和4年4月の事象「解体作業時に重量物が落下し、エア配管を破断」以降は、全てリスクレベルⅡ以下であり、インシデントはありませんでした。

表-19 リスクの見積もり

【労働災害に係るリスク評価】 対象：ヒヤリハット情報
 ヒヤリハットとは、作業中にヒヤリ又はハットするような、一歩間違えばトラブルに結びつく事象
 この事象のリスク評価結果においてリスクレベルⅢ以上のものをインシデントと位置づけ

人への危害	点数	+	可能性	点数	=	リスクレベル	リスクポイント	リスクの程度	指定
死亡・重傷	10		確実	6		Ⅳ	12~16	安全衛生上重大な問題有り	インシデント
休業災害	6		大	4		Ⅲ	7~11	安全衛生上問題有り	
不休災害	3		有	2		Ⅱ	5~6	安全衛生上多少問題有り	
微小	1		無	1		Ⅰ	~4	安全衛生上問題なし	

表-20 ヒヤリハット情報のリスク評価(令和5年4月~令和6年2月)

月	R5年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年	1月	2月	計
Ⅳ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅱ	0	0	0	2	4	0	1	2	0	1	0	10		
Ⅰ	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	5		
合計	0	0	0	2	4	1	2	2	2	1	1	15		

6. PCB 廃棄物処理施設設備改造・運用変更

環境安全評価委員会開催状況

前回の監視部会(令和5年9月)から令和6年2月末までに、弊社「PCB廃棄物処理施設設備改造・運用変更管理規程」に基づき開催された環境安全評価(SA)委員会での案件はありませんでした。

7. トラブル等の報告

(1) VTR 回収液集合タンク下部ブーツ部の液抜配管サイトグラスからの漏洩

1) 概要

令和5年9月29日、西棟1階タンク室(1)でVTR回収液集合タンク下部ブーツ部の液抜配管サイトグラス(のぞき窓)から木酢液が漏洩して下部のオイルパン内への約200ml滴下を運転員が発見しました。

当日は当該タンクブーツ部の液のサンプリングが予定されており、2日前に液抜配管に通液させた際には、サイトグラスからの漏洩は確認されていませんでした。

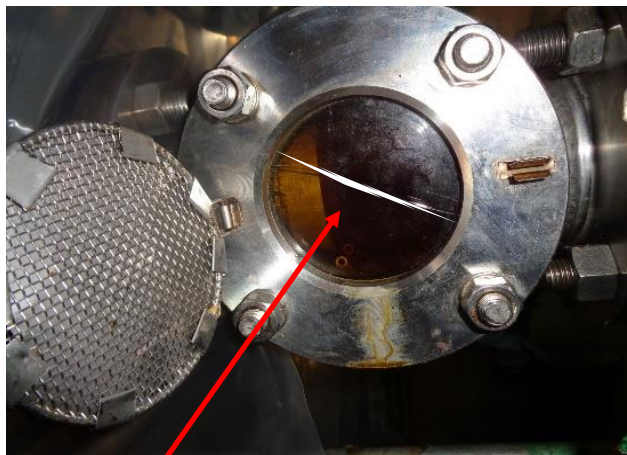
2) 原因

液抜配管サイトグラスの亀裂からの漏洩です。右上のボルトのみが緩んでいました。サイトグラスの破断面は打撃による輪紋が確認され「緩やかな衝撃による破面」の特徴を示していました。このことから、時期は不明ですがガラス面に何らかの衝撃を受けた後、傷が発生し、すぐには破損せず徐々に亀裂が進行し破断したものと推測しました。

3) 対策

作業の開始時には、サイトグラスのチェックを行います。

作業中は打撃発生の防止と保護カバーを閉め真空加熱分離装置のサイトグラス(のぞき窓)のボルト等のチェックを行うこととしております。



● 亀裂(白色イメージで強調)



(2) 小型トランス抜油ラインから循環洗浄残液の漏洩及び被液

1) 概要

令和5年12月21日、午前10時頃、廃棄物処理のための使用を停止した配管の洗浄作業の一環で西棟1階の小型抜油室(2)において小型トランスの抜油ラインを洗浄した後、配管内の残液を抜くために抜油ラインから洗浄液(HC-250:炭化水素系溶媒)を回収していました。

回収容器を交換しようとしてポンプを止めた際に、開放状態のホース端部から洗浄液(HC-250)が約3L漏洩しました。その際に近傍の作業員の左足甲(靴)に約100ml掛かりました。

作業員は靴を履き替えて、人的な被害には至りませんでした。

2) 原因

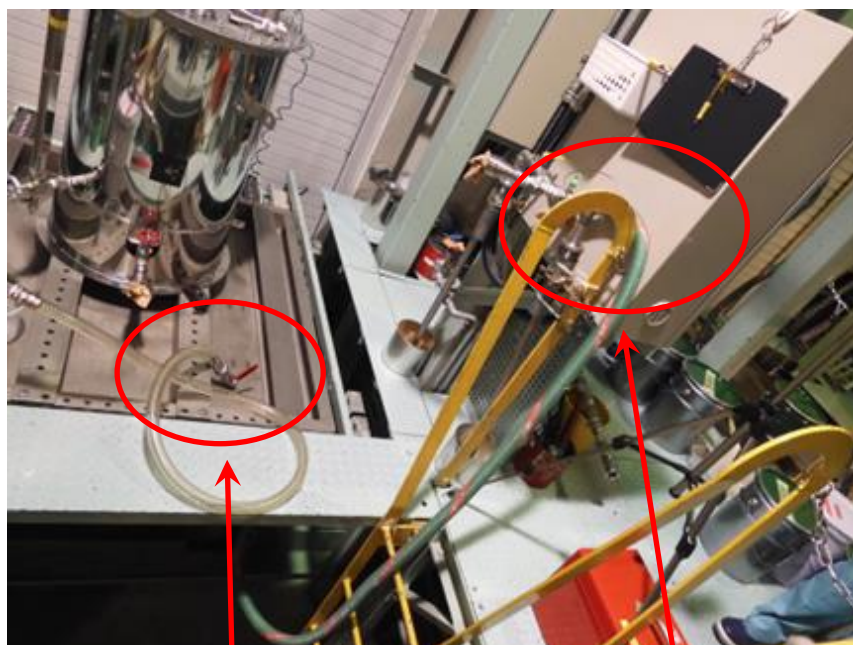
残液の回収作業を、ホースの吸引側端部を開放状態で行っていました。当該ラインにおいては、それまで実施していたラインと比較して残液の回収量が多く、初めて回収容器を交換する作業が発生しました。回収容器を交換する際に一旦ポンプを止めますが、ポンプを止めることについて、事前の危険予知が十分ではありませんでした。

配管洗浄を実施する際の作業マニュアルはありましたが、液抜き段階での作業マニュアルを作成していませんでした。

3) 対策

液抜き作業において配管を開放状態のままとしないよう作業方法を改善することとし、吸引側と排出側のホース端部を共に回収容器に接続した方法で、回収容器の容量も十分な容量のものを採用することとしました。

液抜き作業の作業指示書を作成して徹底を図っております。

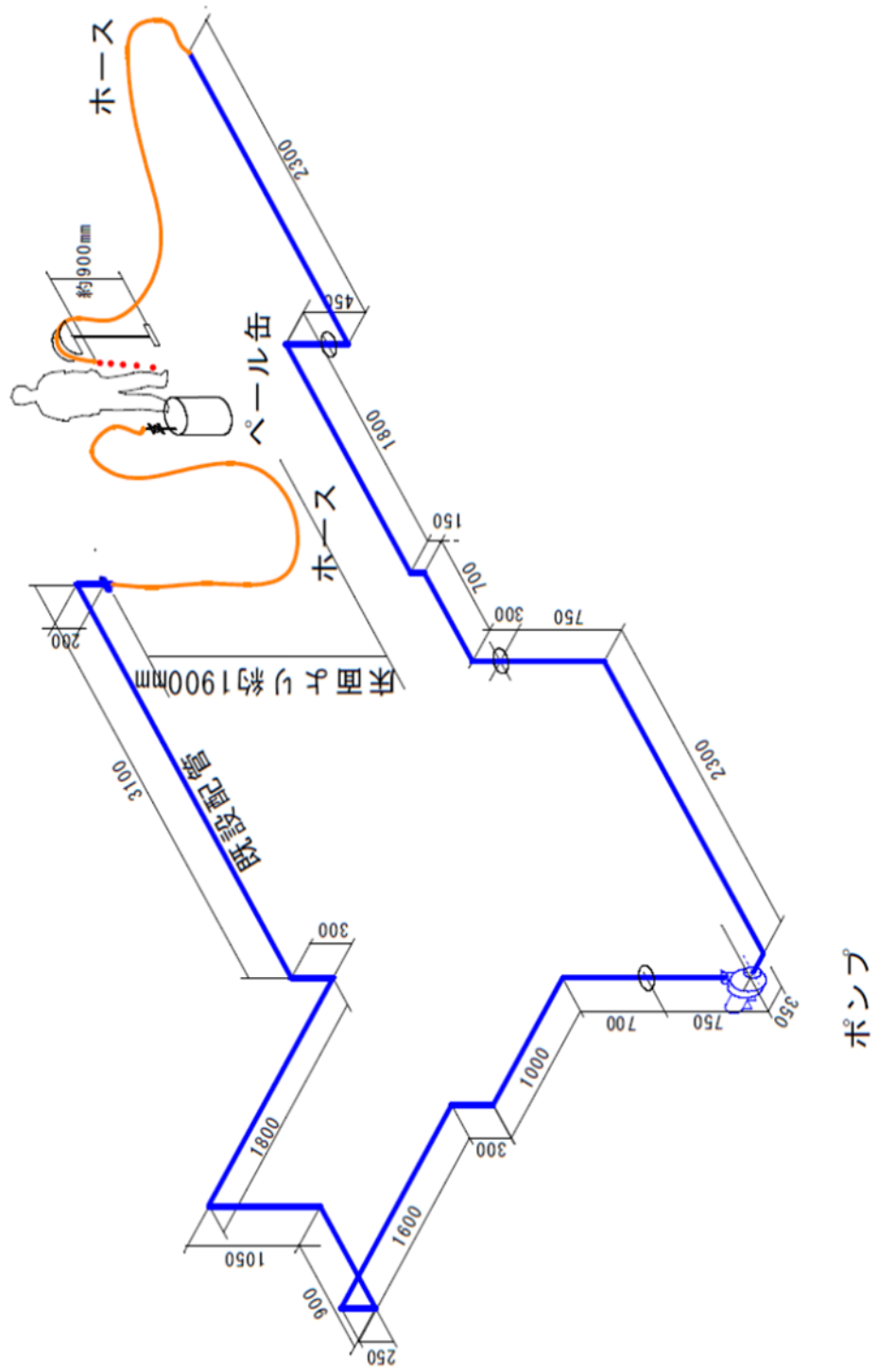


残液排出側ホース端部

吸引側ホース端部(開放状態)

小型トランス抜油ラインから循環洗浄残液の漏洩及び被液イメージ図

単位 mm



(3) 水素ガス圧縮機ドレン分離器出口逆止弁付近から発火

1) 概要

令和6年1月9日、午後1時9分、東棟1階 反応セクション室1-(1)において、年末年始に停止していたPCBの無害化反応開始のため、3名の作業員が立ち上げ作業を実施していました。PCBの化学分解では、水素を使用するため、水素ガス循環運転に移った際、「水素ガス圧縮機ドレン分離器出口逆止弁」の保温材辺りから発火しました。

ABC消火器にて消火を行うとともに水素ガス圧縮機の入口及び出口のバルブを閉めて鎮圧しました。同時に消防へ119番通報を行い来所後、消防署員が鎮火を確認しました。

なお、作業員の消火作業中、火傷等の負傷を負ったものではありませんでした。

2) 原因

後日、消防署員が立ち合いの元、メーカーによる当該箇所の点検を実施し、逆止弁1次側のフランジのボルトに緩みがあり、水素ガスが僅かに漏れ出し、発生した静電気により発火したのではないかと考えられます。

また、現場検証の際、消防署員の見解も同様な原因であると推測されております。

3) 対策

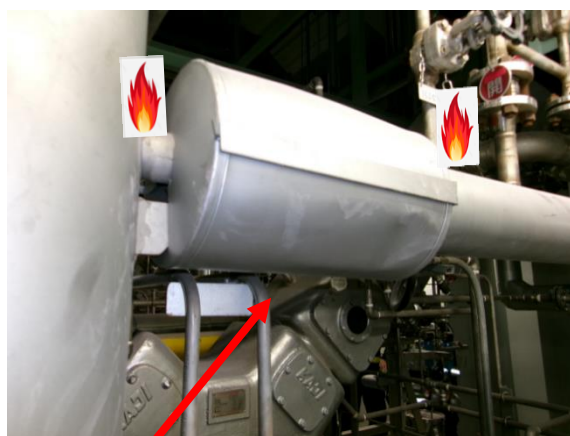
当該逆止弁を新しい弁と交換を行い窒素パージによって漏れの確認を行いました。

また、保温材を撤去し、ガス検知器が検知しやすいようにカバーを穴の空いたパンチングメタルに交換しました。

東棟には他にも同様の水素ガス圧縮機が2台あり、保温材の撤去やカバーも同様な仕様とし、両機ともフランジの増し締めなどの点検を行い窒素のパージ後、漏れがないことを確認しました。なお、他の2台については、ボルトの緩みはありませんでした。

これらの結果を此花消防署へ報告し、1月15日から立ち上げ作業を実施、同月17日から無害化反応を再開しております。

発火の状況



● 逆止弁の保温材部分

対策後



パンチングメタルでカバー

8. その他説明事項

(1) 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う大阪事業所での対応状況

大阪PCB処理事業所においては、入口に検温器や、アルコールスプレーの設置、手指衛生、うがい及び咳エチケット（マスクの着用を含む）等による予防処置、テレワーク及びWeb会議を積極的に取り入れるなど、人と人との接触機会を減らすための対策を継続しています。

(2) 視察・見学状況

平成18年10月に見学受入を開始して以降、令和6年2月末現在で延べ11,703人が情報公開設備を視察・見学されました。視察・見学者の内訳は、地元市民をはじめ企業関係（PCB廃棄物保管事業者を含む）、行政関係、環境関係団体等の方々です。

表一21 視察・見学者数

(人)

2024.2末

年月	総数	企業関係	環境関係団体等	一般関係	行政関係	学校・研修	自由見学	海外
平成18年度	2,129	793	790	113	282	62	55	34
平成19年度	3,333	1,511	1,018	527	148	44	40	45
平成20年度	1,100	316	430	13	168	52	91	30
平成21年度	650	237	183	19	79	64	51	17
平成22年度	624	152	212	34	87	101	26	12
平成23年度	482	231	51	2	128	23	36	11
平成24年度	501	176	149	1	75	60	31	9
平成25年度	465	189	80	1	175	6	14	0
平成26年度	518	158	141	21	111	81	0	6
平成27年度	280	100	77	1	60	34	1	7
平成28年度	412	85	191	3	76	34	0	23
平成29年度	474	91	257	0	39	57	7	23
平成30年度	291	34	85	29	116	10	2	15
令和1年度	309	60	122	0	51	16	5	55
令和2年度	10	0	0	0	10	0	0	0
令和3年度	52	0	0	5	47	0	0	0
令和4年度	59	2	0	0	38	17	2	0
令和5年4月～令和6年2月末	14	4	0	3	7	0	0	0
合計	11,703	4,139	3,786	772	1,697	661	361	287

「環境関係団体等」：環境関係団体や議会等の各種団体

(3) 緊急時対応訓練実施状況

令和5年度は「火災対応」をテーマとして、グループごとに個別事象を設定して取り組んでいます。今後も毎月1回の訓練を計画しています。(表-22)

今後、実施する予定の消防総合訓練等につきましても、新型コロナウイルス感染症対策を実施した対応としています。

表-22 緊急時対応訓練実績

開催予定	訓練内容	実施日
令和5年 4月開催	消防訓練(全員:消火器・担架 取扱)	4月28日
5月開催	火災対応訓練(中央制御グループ)	5月24日
6月開催	火災対応訓練(VTRグループ)	6月27日
7月開催	火災対応訓練(液処理グループ)	10月13日
8月開催	火災対応訓練(分析グループ)	9月13日
9月開催	火災対応訓練(検査解体グループ)	9月20日
10月開催	震災訓練(全員)	10月30日
11月開催	総合消防訓練(全員)	11月29日
12月開催	火災対応訓練(VTRグループ)	12月22日
令和6年 1月開催	火災対応訓練(液処理グループ)	1月30日
2月開催	火災対応訓練(分析グループ)	2月26日



震災訓練 (令和5年10月30日)

(4) 安全教育実施状況

無事故無災害でPCB処理を進めるため、所員の安全意識、知識の向上を図ることを目的に毎月安全教育を実施しています。(表-23)

テーマについては、消防法危険物、労働災害事例、緊急時の対応等、幅広くテーマを設けて実施しています。

社員への安全対策として、防災や新型コロナウイルス感染症対策を重視した対応としております。

表-23 安全教育実績

開催予定	教育内容	実施日
令和5年 4月開催	環境マネジメント教育	4月20日
5月開催	熱中症対策	5月18日
6月開催	ヒヤリハット事例	資料回覧
7月開催	令和5年度 夏期定期点検工事	7月21日
8月開催	感染症の予防について (新型コロナウイルス)	8月23日
9月開催	所内労働災害事例	9月21日
10月開催	ハラスメント防止	10月25日
11月開催	緊急時対応	11月16日
12月開催	防災について	12月13日
令和6年 1月開催	火災に備えて等	1月18日
2月開催	救急救命について	2月21日



熱中症対策 (令和5年5月18日)



ハラスメント防止(令和5年10月25日)